

希望の風

ロータリー希望の風奨学金 10 年のあゆみ



ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会

『希望の風 ローター希望の風奨学金 10 年のあゆみ』 発刊にあたり

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会 会長 地葉 新司

国際ロータリー第 2540 地区（秋田県） 2010-11 年度ガバナー
（潟上ロータリークラブ）

あるロータリークラブの社会奉仕委員長の方から「私の所属する地区は、ロータリー希望の風奨学金の支援地区となっているが、近年支援金を集めた記憶がない。クラブ社会奉仕委員長としてクラブでの支援を考えているが、入会 7 年目の私は『ロータリー希望の風奨学金』についての知識がないので、情報がほしい」との電話がかかってきました。「7 年以上前の震災に対し、今でも支援を続けられていることに驚いた」との感想を頂戴しました。また、別のロータリアンからは「支援地区ではないが、支援したい」との思いで、支援金を送ってもよいのかとのお問い合わせもいただきました。

それから数年が過ぎ、震災から 10 年を迎えました。10 地区の合同プログラムとして始まり、その後 12 地区、15 地区と広がりましたが、それ以外の地区・クラブそしてロータリアンの方々の中にも「目に見える支援なので今後も継続したい」と毎年寄付金を送ってくださる方がいらっしゃいます。現在、協議会としては、支援地区・非支援地区の枠を外し、オール日本として多くの方々にご支援をお願いすることにいたしております。

東日本大震災が起きた 2011 年 3 月 11 日、私は職場（秋田県潟上市）におりましたが、大きく長く続く揺れに驚かされました。当時、私は国際ロータリー第 2540 地区（秋田県）のガバナーでした。幸せにも私の所属する第 2540 地区では大きな被害ありませんでしたが、この後（4 月 6 日）、地区内の大曲ロータリークラブ（RC）の支援活動に同行して被災地を訪れ、目の当たりにした現地の惨状は、想像を絶するものでありました。

その後の 10 年間で、短いのか、長いのかは、その人の置かれた環境によって変わるのでしょうが、東日本大震災の被災地や被災者への支援はさまざまな形で、実行されてきました。既に終了しているものもあれば、継続しているものもあるでしょう。

当時（2010-11 年度）のガバナー会（日本国内のロータリー地区ガバナーの連絡機関）では、ロータリーが日

本に入って間もない 1923 年の関東大震災の折の話や、長岡藩の「米百俵」の話などを参考にしながら、支援の方法を協議いたしました。

関東大震災の折、国際ロータリーをはじめ米国、英国等、世界のロータリアンから合計で 8 万 9,000 ドルの支援金が東京 RC に届けられました。それをどう役立てるか、クラブ内で検討され、孤児院の建設、消失した小学校に対する黒板・日本地図・世界地図・大型算盤の寄贈、殉教警察官遺族への寄贈が実行されました。

また、北越戊辰戦争に敗れ、焦土と化した長岡のまちに、支藩である三根山藩（新潟県西蒲原郡巻町峰岡）から見舞いとして送られた米百俵を長岡藩大参事の小林虎三郎は反対する藩士らを説得し、藩士らに分配せず、この米を売り、その代金を国漢学校設立資金の一部に充て、さらに国漢学校の書籍や用具の購入に充てたと言われています。

ロータリーらしい支援の方法は何かを検討した結果、被災遺児への奨学金とすることとし、被災地域が多地区にわたることからオール日本として取り組むこととなりました。その中で生まれた「ロータリー希望の風奨学金」はロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会が運営する被災遺児・孤児（以下、遺児）に対する教育支援プログラムです。しかし、地区ごとにさまざまな考えがあり、残念ながらオール日本としての取り組みはかないませんでした。

本誌は震災後の現地視察やガバナー会を振り返り、「ロータリー希望の風奨学金」が生まれた経緯（『ガバナー月信』に掲載していたもの）や第 2790 地区（千葉県）の 2010-11 年度ガバナーであった織田吉郎氏が協議会の副委員長として報告されたものを紹介しながら、現在までどのように運営されてきたかを『ロータリーの友』に掲載された文章を中心にまとめてみました。今後起こり得るさまざまな災害に対する支援活動の一助になるものとの思いで、振り返ってみたいと思います。



被災者とともに —

私たちロータリアンは東日本大震災のことを決して忘れません

Contents

- 1 『希望の風 ロータリー希望の風奨学金 10 年のあゆみ』 発刊にあたり
ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会 会長 地葉 新司
- 4 「ロータリー希望の風奨学金」の概要
- 5 年表
- 8 ロータリアンに支えられて
2010-11 年度第 2790 地区（千葉県）ガバナー 織田 吉郎
- 12 「ロータリー希望の風奨学金」…… そのあゆみ
- 14 「ロータリー希望の風」奨学生との懇談会を開催
- 16 日本の各地でチャリティーコンサートが開催されています

6 Message 2012	28 Message 2016	34 Message 2020
10 Message 2014	29 Message 2017	
19 Message 2015	33 Message 2018	



20	「ロータリー希望の風奨学金」への地区別支援金推移
22	「ロータリー希望の風奨学金」への支援金協力地区（国内）
24	年度別収支計算書
24	プログラム開始から終了までの活動実績および予測
25	給付奨学生の状況
26	出身県別に見る奨学生の進学先
27	県・市町村別奨学生の人数
30	ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会 役員・委員名簿
32	ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会 規約
35	あとがき ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会 会長 地葉 新司
36	日本のロータリー地区分布図
36	奥付



「ロータリー希望の風奨学金」の概要

「ロータリー希望の風奨学金」は、2011年3月11日に発生した東日本大震災で両親または片親を亡くした子どもたちに、大学や短期大学、専門学校への進学をあきらめないでほしいという思いから生まれました。

震災直後に日本国内のロータリアン（ロータリークラブ会員）から寄せられた義援金・支援金は、緊急支援やさまざまな復旧・復興活動に活用されましたが、その一部約3億円を当初の資金に、未来を担う子どもたちへの支援として、奨学金を支給することになりました。

運営はロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会で、国内34地区のうち10地区が参加してスタートしましたが、その後、参加地区が増え、現在では地区の枠組みを外して活動をしています。

本奨学金は、震災発生時に0歳だった子どもが大学生になって卒業するまでの22年間を期間としてスタートしました。そのために必要な資金は、総額で約10億8,335万円と見込まれています。

当然、当初の資金だけでは賄うことはできませんが、その後もロータリアンに限らず、趣旨に賛同して下さった多くの方々から寄付をお送りいただき、今日まで運営されてきました。

奨学金の振り込みに関しては、千葉銀行のご厚意により、送金手数料を無料にいただき、また、専属のスタッフを雇わずロータリアンやその配偶者によって事務作業をするなどして、必要経費を極力抑えることにも努めています。

奨学生の条件：

東日本大震災で両親もしくは片親を失った「遺児」で大学、短期大学、または専門学校に学ぶ者
奨学金の給付：

入学から卒業まで毎月5万円を継続して給付し、返還を求めない

申請から給付まで：

被災各県高等学校・遺児家族・本人→在籍高等学校の推薦→申請→資格審査（書類確認）のうえ遺児および推薦学校宛「給付決定通知」送付→大学・専門学校入学と同時に、在学証明書を当協議会に送ってもらう→奨学金給付開始

奨学金給付開始後：

奨学生が進級する毎に在学証明書を送付してもらう（毎年4月）

留年や停学などで在学証明が更新できないときは給付を停止する

給付方法：

奨学生本人の口座に銀行振り込み

支援方法は…

下記までご連絡ください。

連絡先

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会
〒104-0031

東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館1階
国際ロータリー第2580地区ガバナー事務所内
tel. 03-5250-2050 fax. 03-4586-6393

Eメール mail@kibounokaze.com

Web www.kibounokaze.com

支援口座（口座名義）

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会
千葉銀行 銚子支店 普通 3549340

年 表

2011 年

- 3 月 11 日 東北地方太平洋沖地震発生
- 4 月 1 日 東日本大震災と呼称変更される
- 4 月 11 日 2010-11 年度 緊急ガバナー会議
東日本大震災支援委員会（使途検討委員会）発足 織田吉郎氏を委員長に選任
- 4 月 11 日 2010-11 年度 第 3 回ガバナー会議
- 6 月 8 日 2010-11 年度ガバナー被災地視察（陸前高田市・大船渡市）
- 6 月 9 日 2010-11 年度 第 4 回ガバナー会議（盛岡市）
- 6 月 22 日 2010-11 年度・2011-12 年度 第 1 回新旧ガバナー会正副議長引き継ぎ会議
- 6 月 30 日 2011-12 年度ガバナー懇談会
- 7 月 31 日 2010-11 年度・2011-12 年度 第 2 回新旧ガバナー会正副議長引き継ぎ会議
- 10 月 4 日 被災遺児奨学金支援賛同地区合同 2010-11 年度ガバナー会議
- 10 月 31 日 ロータリー希望の風奨学金推進会議 奨学金の名称を「ロータリー希望の風奨学金」に決定
ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会発足
上野操氏を委員長に選任、その他委員会構成を決定
代表事務局を国際ロータリー第 2580 地区ガバナー事務局に開設
「ロータリー希望の風奨学金」奨学生の募集を開始
- 11 月 1 日 臨時委員総会
- 12 月 12 日 臨時委員総会
- 12 月 銚子事務局開設（総務 ～ 2014 年 5 月 会計 ～ 2012 年 7 月）

2012 年

- 2 月 3 日 臨時委員総会
- 6 月 14 日 定時委員総会
会計年度を学制年度からロータリー年度に変更
- 7 月 岐阜事務局開設（会計 ～ 2014 年 6 月）

2013 年

- 7 月 25 日 定時委員総会

2014 年

- 6 月 秋田事務局開設（総務 ～ 2017 年 6 月）
- 7 月 川崎事務局開設（会計 ～ 2017 年 6 月）
- 7 月 25 日 定時委員総会
地葉新司氏を委員長に選任

2015 年

- 7 月 30 日 定時委員総会
- 9 月 18 日 広報『風の便り』創刊（月刊）

2016 年

- 7 月 28 日 定時委員総会

2017 年

- 7 月 27 日 定時委員総会
- 7 月 秋田事務局開設（統括）
- 7 月 浅草事務局開設（総務）
- 7 月 三次事務局開設（会計 ～ 2020 年 6 月）

2018 年

- 7 月 28 日 定時委員総会ならびに第 2580 地区委員会合同会議

2019 年

- 6 月 19 日 東京浅草ロータリークラブ（第 2580 地区）「希望の風奨学生の卓話とランチ会」開催
- 7 月 25 日 定時委員総会

2020 年

- 1 月 30 日 臨時役員会
- 7 月 1 日 志木事務局開設（会計）
- 7 月 30 日 定時委員総会（新型コロナウイルス感染拡大のためメールおよび郵送により開催。書面議決）
- 8 月 9 日 規約改正を決定（定時委員総会のメールおよび郵送、ファクスを受け）

2021 年

- 3 月 11 日 東日本大震災発生から 10 年

『ロータリーの友』誌特集で 現況報告

2012 年 8 月号	2013 年 8 月号
2013 年 12 月号	2014 年 8 月号
2014 年 10 月号	2015 年 9 月号
2016 年 3 月号	2016 年 9 月号
2017 年 9 月号	2018 年 3 月号
2018 年 9 月号	2019 年 9 月号
2020 年 9 月号	

父と母が仕事場ごと流されて亡くなり、高1の妹、中1の弟と自分が残されました。父母の弔慰金は2人の弟妹の進学に備えて残しておかなければならないため進学は困難と考えあきらめかけましたが、大学薬学部合格。今はふるさとの復興を医療面で支えていきたいと心に決めました。4年間支援して下さる「ロータリー希望の風奨学金」がなかったら就職の道を選んでいたと思います。(高校3年)

母と弟を含めて家族4人を津波で失い、家も全壊しました。大きなショックを受けましたが、ボランティア活動をして同じ悲しみを抱えた人たちを支えることで自分を奮立たせました。自分の復興活動でした。今は、大学で災害マネジメントを学んで、今後二度とこのような大きな災害を受けることのないようにしたいと思っています。

母が避難所で死亡。母を亡くしたことで保健師として被災地域に貢献していきたいという意識がそれまで以上に強くなりました。国立大学医学部看護学科に合格したのでしっかり勉強していきたいと思っています。

父が津波で死亡。家は全壊。無職の母、兄(働いている)、中1、小4の弟と自分が残されました。昨年秋には大学祭で企画部長をやって自信をつけました。今は大学を卒業したら2人の弟を高校・大学に行かせるのが私と兄の役割と思っています。卒業したら一生懸命働くつもりです。(大学2年)

父が津波で死亡。母は震災以前に亡くなっていましたので一人っ子の私は天涯孤独になりました。父の死で大学に行きたいという思いはより強くなりました。それは福祉の勉強をして、被災地復興の役に立つのが自分の役割と決めたからです。卒業まで見守ってほしいと思います。

父と姉を津波で失いました。私は精神的ショックから体調を崩し学校を欠席する日々が続いていましたが、将来を見すえて復学を決意。以降自学自習で遅れを取り戻し大学にも合格できました。ようやく自分の夢を見つけられた思いがしています。奨学金が、背中を押してくれました。(高校3年)

母が津波で死亡。父は震災以前に亡くなっていて、祖母と中1の弟と私が残されました。大学で医薬品の研究開発を専攻していますが、何とか卒業まで研究を続けたいと思っています。卒業したら弟を大学まで行かせてやるために一生懸命働くつもりです。今を支えてくれるのは本当にありがたいと思います。(大学2年)

母、妹、弟の3人を津波で失いました。私も一緒に流されましたが助かりました。今、週末アルバイトをして家計を支えています。もともと子どもが大好きなので保育士になるという夢を持っていました。この夢をあきらめたくなかったので「ロータリー希望の風奨学金」をもらえることに決まってとてもうれしいです。(高校3年)

父が津波で流され死亡。母は会社で流されて解雇されました。自宅は全壊し、思い出も全て失いました。あまりの傷心の深さに呆然と日々を送る中で、父の死を通して将来は養護学校教諭になって自分と同じ思いをした子どもたちの心のケアをしたいと目標を定めました。生活が困窮する中ですが、皆さんの善意を頼りに今は大学で勉強したいと思っています。

父母、祖父の3人を津波で失いました。避難所でのボランティア活動に献身的に参加することで悲しみを乗り越えてきました。残った4兄弟の中に中学2年の弟がいて、この経済困窮の中で医療専門学校に行くことが果たして許されるものかどうか悩みましたが、今は学校に行って整備師になる夢を実現させてもらえそうな気がします。(高校3年)

父、母、姉の家族全員を津波で失いました。一人生き残って伯父の家に身を寄せています。私は動物好きで動物看護の専門学校に進学が決定した後も、経済的負担から一度は夢をあきらめ就職活動に転じようとしたのですが、悩み抜いた上でこの奨学金の後押しもあって夢をあきらめないことを決意しました。

父が津波で行方不明。学業が優秀。本人は在学中のロシア留学を希望しています。将来日本の担い手となることを確信しています。
(国立大学の担当教授)

父が寝たきりの伯母を助けに行き津波で死亡。無職の母と高1、小5の妹と自分が残されました。あと1年、何とか卒業したいと思っています。妹たちを学校に行かせるために学校をやめて働こうかと悩みました。奨学金がなければ就職するしかありませんでした。
(専門学校生)

父母が津波で死亡。中学2年の弟がいます。弟を高校まで行かせてやりたくて私は働かなければ…と思っていました。でも奨学金がいただけるのなら既に合格した医療専門学校で勉強ができます。ありがとうございます。

(高校3年の女性)

父が津波で死亡。無職の母と高2の弟は仮設住宅で暮らしています。自分の前に明るい材料は何一つありません。でも今は何とか大学を卒業することで未来が開けると信じています。

(大学2年)

父が津波で死亡。学費が払いきれず退学も仕方がないと思いましたが、学校が授業料を免除してくれました。県の奨学金とロータリー希望の風奨学金で卒業までの目途がたちました。頑張って医療事務の勉強を続け、被災した自分の町を医療の現場で支えたいと思います。

(専門学校の1年生)

母、祖父母が震災で死亡。父も失業しており経済的困窮度が高い。大学生の兄と私と、中学生の妹の3兄妹、大学に入ったもののこの先不安でいっぱいです。兄と大学を辞めようかと話しましたが、兄弟共にロータリー希望の風奨学金をもらえることになって、卒業まで頑張ることにしました。

(大学2年)

父は身体障害者のため逃げ遅れて死亡。自分は一人っ子で津波のトラウマによってなかなか前を向いて生活できませんでした。今は少しずつ立ち直ってきています。専門学校に通っている間にこれからのことを考えたい。奨学金は私に立ち直るための時間を与えてくれたように思います。

(高校3年の女性)

同居家族のうち自分を除いて皆を一瞬にして失いました。現在、祖父の家に身を寄せています。進学した折には在学証明書を送るので、奨学金をお願いします。ようやく前を向けるようになりました。

(高校3年の女性)

津波で主人を亡くしました。4人の子どもの将来をどうしようかと思い悩んでいましたが、大学に行けるようになったら卒業まで毎月給付してくださるんですね。子どもに進学しても大丈夫だから勉強しなさいと言えます。ありがとうございます。その時はよろしく願いいたします。＜後は涙で言葉にならない方＞

(高校1年生を筆頭に4人の子を持つ母親)

Message 2012

ロータリアンに支えられて

2010-11 年度第 2790 地区（千葉県）ガバナー 織田 吉郎

（銚子ロータリークラブ）

おかげさまで、私たちロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会は、東日本大震災で両親もしくは片親を亡くした遺児たち（大学生、短大生、専門学校生）に奨学金を給付する「ロータリー希望の風奨学金」プログラムを軌道に乗せ、現在は安定飛行に移すことができました。ご支援くださいましたロータリアンの皆さまに厚く御礼を申し上げます。

国内 10 地区、国外 1 地区の合同プログラムとして、義援金 3 億円を持ち寄って、2011 年 11 月にスタートした本プログラムは、支援地区も国内 13 地区・1 団体、国外 2 地区に増え、支援金もこの 1 年半の間に 2 億 4,000 万円を上乗せして総額 5 億 4,000 万円を超えました。

月を追うごとに被災地の遺児をもつ家庭に、その存在が知れ渡るようになり、今ではその名のおとり「ロータリーの希望の風」として温かく迎え入れられるようになっていきます。

親を亡くした子どもたちの家庭の暮らしぶりは、まだ「安定」には程遠いようです。厚生労働省のアンケート調査によれば遺児が暮らす家庭で家計を支える人の仕事について聞いたところ、30% が仕事に就いていません。母子家庭では半数近くがパート等の就労で、収入も少なく不安定な環境にあります。

日本の大学生・専門学校生をもつ家庭の月々の仕送り金額は平均 10 万円弱と言われます。この親からの仕送り分の半分を賄っているのが「ロータリー希望の風奨学

金」です。残りの半分は各県育英制度が支援をしています。震災後に新聞をにぎわせた「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」など、さまざまな遺児への教育環境支援募金は、この各県育英資金に投入されていることが多いようです。このほか、人数制限付の地域限定の小さなプログラムはいくつかあるようですが、全体として見渡しますと「ロータリー希望の風奨学金」（月々 5 万円給付）は進学できるか否かの瀬戸際にある多くの遺児たちにとって、その金額以上に大きな意味をもち、ある意味では決定的な役割を果たしているものと私たちは判断しています。（注 1）

遺児保護者へのアンケート調査によれば、今後の支援への要望について聞いたところ「子どもたちの心や気持ちを支えてほしい」と「学習支援にかかわる活動をしてほしい」が多数を占めています。ここでも、このプログラムの確かさを見てとることができるように思います。

アンケート調査では回答しなかった家庭が 33% あります。回答した家庭でも「そっとしておいてほしい」という答えが 20% ありました。合わせると約半数の保護者は喪失感からいまだ立ち直っていないと見てよいでしょう。

本プログラム賛同地区内クラブの方から「クラブ近くの学校に通っている奨学生を紹介してください。例会で話を聞かせてほしい」という申し出が多く寄せられます。当方から 30 人ほどの奨学生に当たってみました「ま



だ気持ちの整理がついていません。もう少し時間をください」という声の大半を占めました。奨学生から生の声を聴けるのはもう少し先のことになります。

NHKの番組では、遺児たちの中には被災経験を口に出せない子どもや、引っ越しを余儀なくされて転校した学校では、親を失ったことを負い目に感じて打ち明けられない子どももいると報告していました。

こうした、いまだ暗い闇を抱えている遺児やその家庭に心を寄り添わせながら「ロータリー希望の風奨学金」はいつでもそっと遺児たちの背中を押す風であり続けたいというのが私たちの願いです。

私はプログラムの窓口を担当している関係で、遺児や保護者と電話で話をする機会に恵まれています。その90%は保護者からのものです。「子どもを進学させること」は親の務めだと考えているからでしょう、奨学金の給付決定を心から感謝し、喜ぶ声はまず親から伝わってきます。

被災地域の地方紙や自治体の広報紙で「ロータリー希望の風奨学金」の存在を知った現在小学生や中学生を育てている保護者から「うちの子どもたちが進学する時にも奨学金をいただけるのでしょうか」という問い合わせが結構あります。「はい大丈夫です。ロータリー会員の皆さんは今でも支援金を寄せてくれていますので、どうぞ安心してお子さんに進学を勧めてあげてください」と話しますと「ありがとうございます。助かります。これで子どもたちに大学に進学しても大丈夫だから、しっかり勉強しなさいと言えます」とホッと肩の荷を下ろしたように喜びを語ってくれます。こんな時、このプログラムは遺児だけでなく、その保護者をも支えているのだと実感します。

現在122人の奨学生が日本の各地で学んでいます。驚くことにその約半数が医療関係の大学や専門学校に進んでいます。彼らは口をそろえて「将来は地元に戻って

地域の復興を医療面から支えたい」と言います。

すさまじい被災状況を目の当たりにして、二度と再びこの惨状を繰り返さないよう、そのために役に立ちたいという明確な問題意識を持って進学していることがうかがえます。

こうした熱い思いを秘めた若者が学び、卒業してふるさとに帰り社会の一員となっていくとき、被災地東北の復興は一層確かなものになっていくに違いありません。

このプログラムは遺児本人だけでなく、その保護者を支えていることは前述しましたが、もう一つ言えば、毎年地元のメディアを通じて被災者たちに届く「ロータリー希望の風奨学金」プログラムの情報は「ロータリアンは東日本大震災を決して忘れません。すべての遺児が進学の希望をかなえることを目標に粘り強くプログラムを推進します」というメッセージとなって多くの被災地の方々に勇気を与えているという一面があることも確かです。

事務局にかかってくる電話の中に「私達を忘れないでいてくれることが本当にうれしい」という方がいらっしゃいます。先日は遺児をもたない家庭のお父さんから「感動した」という電話をいただきました。新聞を見た一般の方から支援金が寄せられることもあります。

私は事務局を担当していることで日々充実感を味わっています。「ロータリー希望の風奨学金」が、確かに震災の復興を支えているという実感を与えてくれるからです。そして、ご支援くださるロータリアンの素晴らしい奉仕の精神に接し癒されています。

周年記念事業として「ロータリー希望の風奨学金」を取り上げてくださるなど、静かではありますが、支援の輪は着実に広がりを見せております。温かなロータリアンに支えられて私たちは着実にプログラムを推進してまいります。

『ロータリーの友』2013年8月号から抜粋



織田吉郎氏は、東日本大震災発生時の国際ロータリー第2790地区（千葉県）ガバナー。震災後、集まった義援金・支援金の使い方を検討する東日本大震災支援委員会（使途検討委員会）が組織され、委員長に就任しました。その後発足したロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会では副委員長に就任し、加えて銚子事務局として、奨学生の情報管理、支援者との連絡窓口、新聞社への対応、被災地各県の高校や奨学生が進学している大学・専門学校との連絡、報告書の作成などを担っていました。

織田氏は「ロータリー希望の風奨学金」に関して熱い志をもって活動されていましたが、2014年6月、病のため逝去されました。

注1）2021年現在ではより多くの奨学金制度があります。

父子家庭でした。父が、妹の無事を確認後に自宅にいた兄を心配して車で移動中津波に巻き込まれ、兄、私、妹の3人が残されました。兄は「ロータリー希望の風奨学金」を受けて大学2年生、妹は中学2年生。私は生徒会の副会長として生徒会の運営に携わってきました。文学を学びたいと思い大学を受験、合格しました。今は前途に明かりを見つけた思いがしています。
(高校3年の女性)

夫が津波で死亡。長男が「ロータリー希望の風奨学金」を受けて大学2年生です。この下に高2、中2、小5と3人の子どもがいます。皆、勉強が好きで大学へ進学したいと思っているようですが、「ロータリー希望の風奨学金」はこの子たちにもいただけるのでしょうか。
(4人の子どもの母親)

津波で母が死亡。今はアルバイトをしている父と兄2人（アルバイトと無職）と私の4人暮らしです。経済的にとても大学進学は無理と思っていましたが、先生がこの奨学金を教えてくださいました。工業系の大学で自動車関連の開発の勉強をする夢をかなえたいと思います。
(高校3年の男性)

はい、大丈夫ですよ

ありがとうございます。子どもたちに安心して勉強なさいますと言えます。

父が津波で死亡。母（無職）と私は仮設住宅に住んでいます。私は情報と福祉を結びつけて障害者の手助けをしたいと思って大学を決め、合格しました。経済的困窮度が極めて高いので、奨学金なくして進学は考えられません。
(高校3年の女性)

父が津波で死亡。母、兄（「ロータリー希望の風奨学金」奨学生）、祖母と私の4人暮らし。経済的に大変苦しくて、進学を諦めたときもありましたが、幼稚園教諭になりたいという夢があり、改めて進学を決意、大学に合格しました。奨学金がなければ就職するしかありませんでした。
(高校3年の女性)

父が津波で死亡。自宅も全壊し母と弟（中2）と3人で仮設住宅に住んでいます。姉は「ロータリー希望の風奨学金」をもらって京都の大学で勉強しています。私は大学を卒業したらぜひ、地元の復興の仕事に携わりたいと思っています。
(高校3年の男性)

父母が津波で死亡。中学2年(弟)と小学6年(妹)と私が残されました。弟は勉強ができるので大学まで行かせてやりたい。そのため私は働かなければと思っていましたが、奨学金をいただけるのなら、アルバイトをしながら、私も専門学校に進学したいと思います。(高校3年の女性)

長女は震災時父親を亡くしたショックで勉強することができませんでしたが、「ロータリー希望の風奨学金」をいただいて、おかげさまで今は自宅から往復数時間かけて仙台の学校に通っています。次女は今受験中ですが、不合格になってしまいそうで落ち込んでいます。私はアルバイトで何とか暮らしていますが、浪人中は奨学金はもらえないのでしょうか。(2人の子どもの母親)

父が帰宅途中、大渋滞に巻き込まれ津波で死亡。自宅も全壊し、母(無職)と私の2人で仮設住宅に暮らしています。高3の夏に遺児を対象としたリーダー研修でアメリカに行きました。それまでは高校を出たら就職するつもりでしたが、進学したいと思うようになり、専門学校に合格しました。卒業したら、医療面から故郷復興の役に立ちたいと思っています。(高校3年の男性)

ロータリー希望の風奨学金はあくまでも大学生(短大生を含む)と専門学校生が対象です。娘さんには諦めず頑張ってと伝えてください。

経済的困窮度が高く、家族の生活を支えなければならないため、大学をやめようと思います。将来また、大学に入れた時、奨学金はもらえるでしょうか。(大学1年の男性)

被災した故郷を離れて愛知県の大学に進学しましたが、慣れない学生生活でつらい。生活苦の中、無理をして進学させてくれた家族のところに一度戻り、自分の進路を考え直したいと思っています。今の大学は退学して自宅から通える大学に入り直す場合、奨学金はもらえますか。

(大学2年の男性)

1年間給付したのであと3年間分は給付できます。但し、30歳までとなっています。

はい、これまで1年半分給付しているので残り2年半分は給付します。

父が津波で死亡。自宅も全壊し、母(スーパー勤務)と姉(希望の風奨学生・大学2年)と妹(中学2年)と私で仮設住宅に暮らしています。高3の夏休みに遺児対象のベルギー短期留学に参加しました。そのとき日本の電力事業のあり方について学びたいと思い、大学にも合格しました。奨学金をもらえれば一生懸命勉強できます。よろしくお願いします。(高校3年の男性)

Message 2014

「ロータリー希望の風奨学金」…… そのあゆみ

発足するまで

震災直後に動き出した支援活動

2011年3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震とその後発生した大津波、そして東京電力福島原子力第一発電所で発生した炉心溶融など一連の放射性物質の放出を伴った原子力事故は東北地方に多くの被害をもたらしました。「東日本大震災」です。

この大災害の報に接し、日本国内だけではなく、世界中のロータリークラブやロータリアン（ロータリークラブの会員）は、支援へと動き出しました。震災発生直後に食料や毛布などの支援物資をかき集め、トラックに積み込んで被災地に向かったクラブがありました。その後も、道路が寸断されガソリン不足の状況下で、何とか支援物資を届けようと日夜を問わずクルマを

はなく、世界中のロータリークラブからの支援の申し出が届いていました。

当該年度のガバナー会では、義援金や支援金を集めるに当たり、被災した地区が広域で多地区にわたるためオール日本での対応とし、ガバナー会で取りまとめる方針を打ち出しました。一方で、ロータリーの活動ならびにガバナー会の立場上、各地区やクラブあるいはロータリアンが個別に支援するケースについてはその意思を尊重することになりました。

ロータリアンらしい活動を念頭に

地震から1か月が経過した4月11日、国内34地区のガバナーのうち26人が東京のグランドプリンスホテル高輪に集合し、緊急会議が開催されました。国内のガバナー全員集合とはいきませんでした。被害が大きかった第2520地区（岩手県・宮城県）ガバナーの楢

山直樹氏と、福島原発を抱える第2530地区（福島県）ガバナーの大橋廣治氏も、緊急支援や会員の安否確認に迫られ、また交通事情が悪い中を駆けつけ出席しました。

災害発生時においては、状況が刻一刻と変化します。支援のためには、それらの情報を的確にとらえ、いち早く対応することが肝要です。しかし、停電していてインターネットが使えなかったり、電話が混み合ひ合って繋がりにく

かったりという中で、被災地の状況を正確に知るのには限界がありました。そこで緊急支援に対応するため、既に義援金の一部を主な被災地区に送金していましたが、この時点で、ガバナー会に寄せられた義援金は4億9,000万円を超えていました。

緊急会議では、義援金のロータリーらしい使い方について、検討されました。

「ロータリーらしい支援活動」とはどのようなものなのでしょうか。被災地区でもある第



走らせたロータリアンたちがいました。

被災地ではロータリアン自身も例外ではありません。自宅や事業所が壊れたり流されたり、家族や身近な人たちが亡くなった、消息がわからないという状況の会員もたくさんいました。そんな困難な状況にもかかわらず、地域の人々の支援に奔走するロータリアンもいました。

日本国内にある国際ロータリー（RI）の地区は34。それらの地区のガバナーからなるガバナー会（2010-11年度）にも、国内だけで

2790 地区（千葉県）ガバナーの織田吉郎氏は「ロータリーの真価が問われるのは、災害初期でなく復興期である。被災者の避難生活は長期にわたるし、義援金の使徒は被災者を支援することにとどまらず、それを通して被災地のクラブがより良いクラブに成長していくことまで考えて決定するのがベスト」と述べています。そして、第一次配分は最小限にとどめ、義援金をしっかりプールし、災害復興期に行政が打ち出す復興支援制度の網で救うことのできないさまざまな困窮事業、例えば、被災遺児の就学支援、進学支援、里親活動などをロータリーの活動として息長く続けることを提言しました。

同じく被災地区である第 2530 地区ガバナーの大橋氏は長岡藩士の小林寅三郎にまつわる「米百俵」の故事を例に「今ある義援金は決して大きな金額ではない。これを分散させることなく、将来を担う青少年たちの教育環境改善のための使うべきである」と述べました。

一方では目の前の甚大な被害に対して、緊急支援を望む声もありました。

そこで、長期的な取り組みが必要であるとの認識に立って使途を検討し、一部を見舞金として被災地区に配分し、緊急支援に役立ててもらうことで一致。長期的な取り組みについては、被災地区のガバナーも入れて使途検討委員会を組織することになりました。使途検討委員会は「東日本大震災支援委員会」と命名され、委員長に織田氏が就任しました。

ガバナー会は規約で年 3 回開催されることになっています。当該年度の第 3 回のガバナー会は、震災が発生する以前に 4 月 25 日開催と決まっていた。分科会なども含め議題も事前に決定していましたが、同 11 日の緊急会議同様、この日も東日本大震災についての協議に終始しました。

ガバナー会議長・第 2580 地区（東京都・沖縄県）ガバナーの上野操氏から震災発生以降の経緯が報告され、東日本大震災支援委員会委員長の織田氏から復興支援体制として、「ロータリーの単年度制が障害にならないだろうか。継

続させるには魅力的なプロジェクトを作ることが重要であり、①公正で、②温かさのある、③建設的なものでなくてはならない」との指摘がされました。加えて、「行政や他の組織にはない、ロータリーらしさを出せないだろうか」との思いが語られました。

地区ごとの判断を尊重

震災支援に関して緊急を要する案件が多く、第 4 回ガバナー会が開催されることになりました。第 2520 地区ガバナーの梶山氏から「義援金の使途について、被災地域を見た上で最終



決定をしていただきたい」との要請があり、6 月 9 日盛岡市で開催されました。

その前日、各地区のガバナーが盛岡に集まり、現地のロータリアンから状況説明を受けながら陸前高田市、大船渡市を視察しました。震災直後に比べると、瓦礫が整理されたり、仮庁舎の建設が始まったりしてはいるものの、ほとんど進展がない状況でした。

ロータリーに関しては、例会場を復活させたクラブもありましたが、例会など思いもよらないクラブが多いとの説明がありました。

会議では、被災地区のガバナーの一部からは最後まで義援金を被災地区に配分してほしいとの要望が出されていましたが、支援の 2 本柱として①被災遺児への奨学金支援、② 5 for 1 プログラム（5つのクラブで被災した 1つのクラブを支援するもの）が提案され多くの賛同を得ました。ただし、独自の方法で支援をするために義援金の返還を求める地区に対しては、これに応じることも決まりました。

6月22日、2010-11年度ガバナー会と2011-12年度ガバナー会が合同で、第1回新旧ガバナー会正副議長会議が開催され、2010-11年度ガバナー会から、前述の2本柱と義援金の残額8億7,000万円の引き継ぎが依頼されました。

6月30日に開催された2011-12年度ガバナー懇談会では引き継ぎ事項に関して、①ガバナー会として活動するのはよくない、②活動を

会正副議長会議の折に、ガバナー会新議長の片倉章雄氏（第2750地区 東京・北マリアナ諸島・グアム・ミクロネシア・パラオ）から「義援金は引き継ぐがプログラムは引き継がない」との申し出があり、奨学金については、賛同する一部の地区の共同プロジェクトとして、発足することになりました。

一方でロータリーの規定に関して、この奨学金プログラムの位置づけがどのようになるの

か、国際ロータリー（R I）の見解を確認する必要がありました。このプログラムが、『手続要覧』に記載されている「多地区合同プロジェクト」に該当する場合は、R I 事務総長の承認が必要になり、手続きに多くの時間を要することになります。

そこでR I 事務総長のジョン・ヒューコ氏にメールを送り回答を求めました。R I 理事会はこの問題を議題に乗せ、他地区合同プロジェクトに関する大幅な緩和に踏

押し付けられたくないなど、否定的な意見も出されました。

その後、7月31日の第2回の新旧ガバナー

会切りました。それは「日本全体または複数の地区が一つになって活動する場合でも、各地区のガバナーの判断と責任において、多地区合同

「ロータリー希望の風」奨学生との懇談会を開催

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会では、毎年4月、奨学生にアンケートをお願いしていますが、その回答を見ると、当初は被災遺児として支援者と直接面談することに躊躇しているようでした。しかし、回数を重ねるうちに、少しずつですが、支援者に直接お礼を伝えたいとの回答を寄せる奨学生も散見されるようになりました。そこで、奨学生に懇談会への参加を呼びかけてみました。

奨学生の多くは被災地の宮城県、岩手県のほか、東北・北海道の大学や専門学校に在学していますが、東京都を中心とした関東圏内の大学や専門学校に在学している学生もいます。奨学生が一堂に会するには、費用の面で難しく、まずは東京に在住する奨学生を誘い、

2016年11月12日（日曜日）、都内で懇談会を開催することができました。以下は懇談会の報告です。

参加者は都内の大学に通う4人の奨学生です。それぞれの出身は福島県（1）、宮城県（1）、岩手県（2）です。奨学生の皆さんは、お父さん、お母さんまたはその一方を2011年の東日本大震災で亡くされています。妹さんが犠牲になられた人もいました。被災時は、中学生あるいは高校生でした。「ロータリー希望の風奨学金」は、高校の先生から勧めや、お父さん、お母さんがいろいろ調べて知ることになったそうです。

協議会からは、3人のロータリアンが出席しました。奨学生たちはロータリーという名前は知っていても、どのような人たちが何をしているのかは、初耳とのことでした。ロータリーの



プロジェクトとして、これを実施できる。その場合、R I 事務総長の承認も、R I 事務総長への報告も必要としない。多地区合同プロジェクトに参加する場合、地区内クラブの3分の2以上の承認を得る必要があるが、今回のような支援活動はその必要もない」というものでした。

ロータリーの規約の中の制度として成立するというお墨付きを得て、プログラムを本格的にスタートさせることとなったのです。

希望の風奨学金が現実

新たな体制で再スタート

10月4日、奨学金プログラムに賛同する地区が集まり、被災遺児奨学金支援賛同地区合同2010-11年度ガバナー会議を開催し、奨学金についての詳細や組織について意見交換をしました。

参加地区が34から10へと減り資金も小さくなったことで奨学金の給付対象を当初の予定から高校生を除外し、大学生、短大生、専門学校生に絞り込むことになりました。また「5 for 1 プログラム」も諦めざるを得ませんでした。

2011年3月11日の震災発生時に0歳だった

子どもが大学を卒業するまでを想定した長いプログラムです。継続するには多くの人々の寄付や支援が必要になります。そこで、会員個人でも、クラブ単位でも、地区単位でも、主体的に参加できるプログラムを立ち上げたいと考えました。

10月31日、奨学金の推進委員会を開催。「ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会（委員長 第2580地区2010-11年度ガバナー上野操）」を設け、義援金の管理を含めて全面的なサポートをする体制を整えました。また、名称を「ロータリー希望の風奨学金」とし、事務局は第2580地区ガバナー事務所置くこととなりました。

早期に軌道に乗ったプログラム

11月1日、奨学生の募集を開始。プログラムは比較的早期に軌道に乗りました。各被災県

具体的な活動を紹介すると、皆さん驚いたようで、若い世代の人たちや留学生、海外とのロータリー関係者との交流に興味を示していました。また、これから、社会人となるうえで、社会人の先輩でもあるロータリアンとの交流にも興味をもち、ロータリーの例会、地区大会などへの参加をお願いすると、ぜひ参加したいと言ってくださいました。

「ロータリー希望の風」以外の奨学金を併せて得ている人もいましたが、皆さんアルバイトをしながらの学生生活を送っています。希望の風奨学金は、学費や生活費として、また自分自身のさらなる向上に費やす資金として大いに役立っていて、感謝しているとのこ



とでした。

懇談会の終わりに、奨学生たちに感想を聞いたところ「ロータリーを知らずに奨学金をもらっていたが、いろいろ知ることができて、参加して良かった。今後も交流したいです」という言葉を聞くことができ、参加したロータリアンにとって、次に繋がる交流が持てたと実感した懇談会となりました。



の教育委員会から各自治体教育委員会へ、そしてそこから各公立・私立高等学校長へ、この奨学金情報は伝わり、順調に申請者数は増加していきました。

そんな折、日台ロータリー親善会議（総裁前川昭一氏）から連絡が入り、台日国際扶輪親善会（理事長 林士珍氏）から同会議へ送金されてきた支援金のうち 1 億 2,340 万円を「ロータリー希望の風奨学金」への申し出がありました。このことによって、約 3 億円でスタートした奨学金の財源は一気に 4 億 2,000 万円を超え、少なくとも 8 年間継続することができるようになりました。

本奨学金は被災遺児の大学生、短大生、専門学校生に、入学してから卒業するまでの間、1 か月 5 万円を継続して給付し、返還を求めないものです。奨学生にはこのほかに各県の育英制度が 1 か月 3 万～5 万円が給付され、この 2 つの奨学金が軸となって遺児たちの進学の希望を支えています。日本で家族が大学生に送っている月々の仕送りの平均は 10 万円弱ですから、その分をこの 2 つの組織がカバーしていることになります。

経費を最小限に

本プログラムの運営は極限的に経費を抑えています。第 1 期(2011 年 10 月～2012 年 3 月)の運営経費総合計は 17 万 9,392 円でした（各年度の収支計算書を 24～25 ページに掲載）。このほとんどは、電話とインターネット接続料および回線使用料、パソコン、ファクシミリ購入費用に充てられたものです。このように、少ない経費を実現できたのは、ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会の委員、つまりロータリアンやその配偶者が事務局員を務めているからです。

ロータリアンと配偶者には日当はもちろんのこと、交通費・宿泊費・食費等一切の経費を支払わないことを規約にうたっています。また、年間最大で 100 万円を超える奨学金の振り込み手数料は、口座のある千葉銀行の協力で無料にいただいています。

そのため、当初決まった第 2580 地区ガバナー事務所のほかに、銚子にも事務局を置いて、事務の役割分担をすることになりました。その後、事務局は事務を担当する委員の変更に伴って変更されています（P 5 の年表をご覧ください）。

「ロータリー希望の風奨学金」プログラムの運用を担うロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会の任期は 3 年となっています。スタート時点での委員の構成は、震災発生当時の 2010-11 年度ガバナーを中心に構成されてい



ました。

震災から 3 年が経過した 2014 年 7 月開催の総会において規約改正を行い、長期にわたる取り組みを人的にも可能にするため、新体制で臨むこととなり、委員数の増加と役員の改選が行われました。委員はすべて再選され、地区ならびに個人としても「ロータリー希望の風奨学金」プログラムに賛同し積極的に活動している人たち、また現委員が推薦した人たちを新委員として選任いたしました。

年を経るごとに状況が少しずつ変わっています。その後も、状況に合わせて規約の見直しや新たな委員の選任を行っています。

広がる支援の輪

震災から 10 年を経た今日でも多くの支援が寄せられています。賛同地区も増えました。クラブ単位の支援も増え、会員個人や家族の方々も支援の手を差し伸べてくださっています。

支援金の送金時に寄せられる「送金確認書」のコメント欄からは、支援金がさまざまな活動

によって生まれていることに気づかされます。当初、賛同地区のロータリアンからの支援を地区やクラブが取りまとめて送金されていましたが、3年が過ぎた辺りからはロータリアン以外の個人や企業あるいは団体からの支援が増えてきました。

クラブの創立記念や地区大会記念、東日本大震災支援をテーマとしたインターシティーミーティング（IM）での募金活動などが多く見られるようになりました。チャリティーゴルフ大会、チャリティーバザー、チャリティーコンサートの開催、各種行事での募金活動など、ロータリアンだけでなく多くの市民の方々が参加した行事からの支援も増えてきました。



さらに、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブやボーイスカウトの募金活動あるいはチャリティー活動として支援をいただくようになりました。加えて、新たに「ロータリー希望の風奨学金」を知った賛同地区以外のクラブやロータリアンからの支援もいただけるようになってきました。

ロータリアン以外でも「ロータリー希望の風奨学金」について取り上げた新聞の記事を見た方から支援の申し出がありました。「何に使われているのかがはっきりしているのがよいです。この奨学金がある間は毎年寄付を続けます」と言っていました。

遺児たちの背中をそっと押す存在に

支援を推進する人たちからは、「現場の声、奨学生の声をもっと聴きたい」「勉学に打ち込めるようになったなど、支援活動に拍車のかか

るような情報を提供してほしい」という意見が出ていました。しかし、「遺児になってしまった」という現実には暗い闇として子どもたちや奨学生たちに重くのしかかっていて、そのダメージは大きいもので、癒えることはありません。

こうした遺児やその家族たちに心を寄り添わせ「ロータリー希望の風奨学金」がそっと彼らの背中を押す存在であり続けたいと願って、少し時間を置き、時が経つにしたがって闇から解放されていく奨学生たちから、少しずつ「生の声」を集める努力を重ねていくことにしました。

奨学金の発足から3年が過ぎたころには、兄弟がロータリー希望の風奨学生という申請者が増えてきました。学校からの推薦を見ると、

遺児たちにとってまだまだ被災後の生活が困難であることを、うかがい知ることができました。

奨学金の給付を受けていても生活が苦しく、進級を諦める学生もいます。3年たっても公共交通機関が復旧せず利用できないため、バスを乗り継いで何時間もかけて学校に通いながら休日は朝から夜遅くまでアルバイトをして家計を助ける、という被災した地元に暮らしながら勉学を続けている多くの奨学生の姿には、遺児となって

しまった現実に加えて、復興の進まない被災地の困難な生活が色濃く反映されていました。

奨学生のアンケート回答からは、彼らの生活や心の変化を垣間見ることができます。震災の記憶やその後の経験が寄せられるようになりました。少しずつですが、ロータリアンとの交流を望む奨学生も増えてきました（各年のMessage ページをご覧ください）。

10年が経過して、被災地の状況は変わってきています。初期に支援した奨学生たちは大学や専門学校を卒業して就職し、家計を支えたり、ふるさとの復興のために働いたり、その成長ぶりを見せてくれるようになりました。

しかし、ロータリー希望の風奨学金プログラムはまだ道半ば、これからも被災遺児たちのために支援を続け、ゴールテープを切ることができるよう、多くの皆さまの協力を必要としています。

皆さまのご支援のおかげで、この度私は3年生に進級することができました。震災の後、諦めていた大学進学
の夢をかなえることができたのは、皆さまのご厚意のおかげです。本当に
ありがとうございます。

春を迎える度に、自分はとても恵まれているのだなあ、と実感します。(中
略) 専門科目の数が増えましたし、それに加えて資格の講義も多くなりました。
(中略)

日々の忙しさに負けないように、時間を大切にしながら勉強を続けたい
です。皆さまが与えてくださった貴重なチャンスを無駄にしないよう、精い
っぱい毎日を過ごしていこうと思います。
(大学3年の女性)

いつもお世話になっております。今年度無事に進級し、ただ今
は就職活動に頑張っております。希望する仕事に就けるように努力
します。

今年度もよろしくお願いいたします。
(専門学校2年の男性)

私は今、幼稚園で4週間教育実習をさせていただいております。大変なこ
ともありますが、学び多き充実した日々を送っています。残り1週間となり
ますが、悔いの残らないよう精いっぱい頑張りたいと思います。

このように、夢に向かって学ぶことができるのも皆さまのお力のおかげです。
今年度もよろしくお願いいたします。
(大学4年の女性)

この度は「ロータリー希望の風奨学金」の給付
を決定してくださり、本当にありがとうございます。
心から感謝申し上げます。

あの東日本大震災の当初の2年間というものは、娘も私も、身も心もボロボロで、どうやって
毎日生きていこうかと日々闘いの連続でした。月
日が経ち、今ではやっと普通の生活が送れるよう
になりました。

娘が去年高校3年生になり、夏前ごろに「私も
大学進学したい」と強く言われた時は、正直どう
しようかととても悩んでおりましたが、このよう
な奨学金があることを知り、また、娘も受けられ
るかもしれないと思うと、とてもうれしくて仕方
ありませんでした。

このように貴重な奨学金を受けさせてもらう以上、娘にはしっかり大学で勉強してもらい、将来
必ず社会や人々のお役に立てる人になってほしい
と心から願っております。どうぞ、これからもよ
ろしくお願いいたします。皆さまにもよろしくお
伝えください。ありがとうございます。

(大学1年の女性の母親)



Message 2015

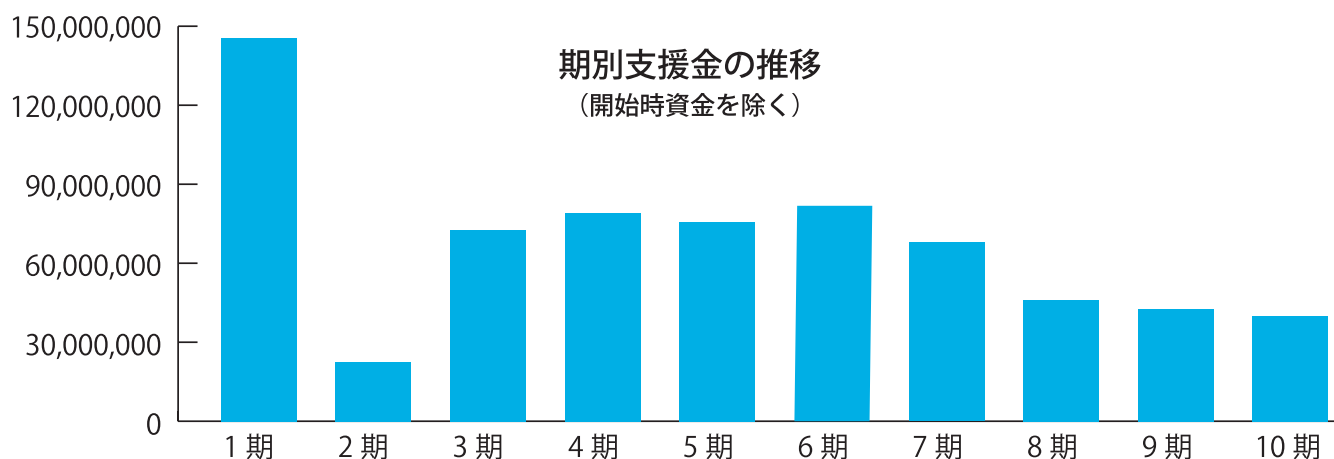
「ロータリー希望の風奨学金」への地区別支援金推移

地区・ 団体・個人	期・期間					
	開始時	1 期 (注 1)	2 期 (注 2)	3 期	4 期	5 期
	2011 年 11 月	2011 年 12 月～ 2012 年 3 月	2012 年 4 月～ 2012 年 6 月	2012 年 7 月～ 2013 年 6 月	2013 年 7 月～ 2014 年 6 月	2014 年 7 月～ 2015 年 6 月
第 2510 地区						
第 2530 地区					112,000	112,000
第 2540 地区	3,014,581		227,610	851,819	737,593	2,168,746
第 2550 地区				100,000	1,354,506	230,000
第 2570 地区	17,651,920	1,120,000	243,000	5,378,595	8,554,968	8,612,357
第 2580 地区	97,039,926	12,941,451	2,596,371	4,934,608	12,081,171	11,363,863
第 2590 地区	23,475,539		220,000	329,000	300,000	3,273,000
第 2610 地区				1,000,000		623,285
第 2620 地区				3,147,271	506,000	
第 2630 地区	17,062,612				197,013	
第 2640 地区					2,000,000	
第 2650 地区	23,702,867			30,000,000	46,503,219	33,276,209
第 2670 地区				1,300,000		
第 2690 地区					313,000	
第 2710 地区	43,418,057			1,730,000	1,600,000	300,000
第 2720 地区	8,612,417	1,000,000	10,344,491	7,643,926	1,045,701	837,381
第 2730 地区						
第 2740 地区						66,400
第 2750 地区			4,100,000	8,046,000	991,906	417,500
第 2760 地区	29,849,696			1,394,226	300,000	4,382,098
第 2770 地区						
第 2780 地区				950,000		
第 2790 地区	40,599,414	7,035,000	1,210,133	2,787,605	1,717,489	7,889,152
第 2800 地区						
第 2820 地区			3,609,160	825,022	247,424	716,376
第 2830 地区				100,000		120,000
第 3340 地区	1,765,192					
第 9710 地区				700,000		
日台ロータリー 親善会議		123,431,330		1,458,587	450,000	
アメリカ・個人・ 台湾・団体					25,000	1,200,161
合計	306,192,221	145,527,781	22,550,765	72,676,659	79,036,990	75,688,528
開始時からの 累計	306,192,221	451,720,002	474,270,767	546,947,426	625,984,416	701,672,944

国内の地区（第 2500 地区～第 2840 地区）は、36 ページのロータリー分布図をご覧ください。

第 3340 地区 = タイ 第 9710 地区 = オーストラリア

単位：円

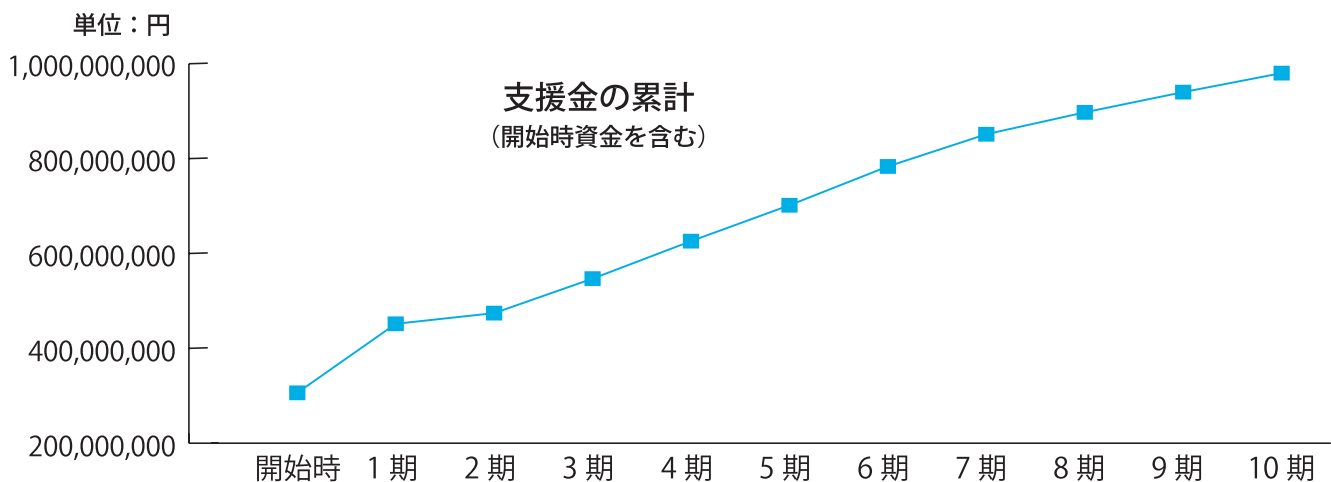


(単位：円)

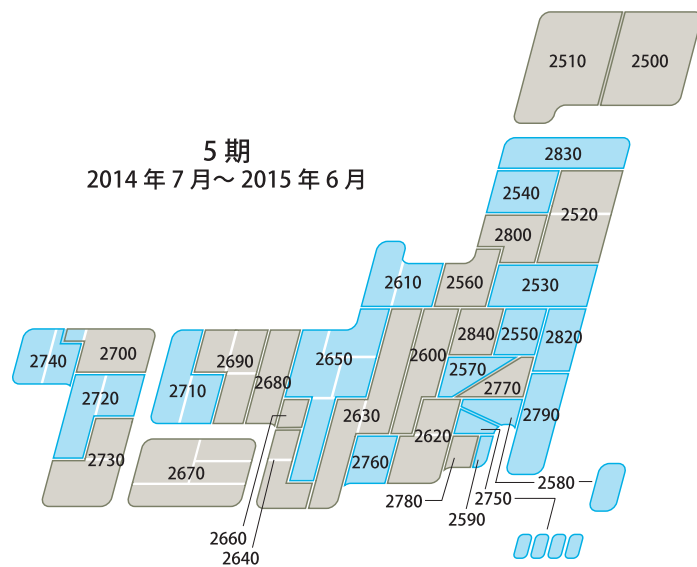
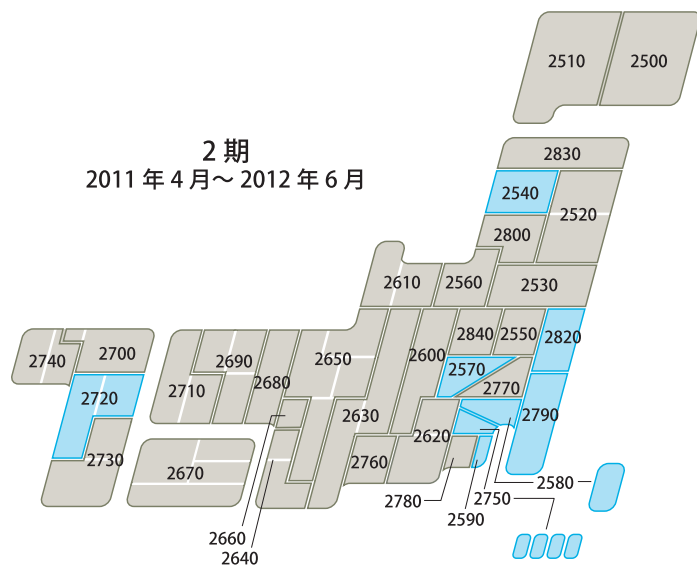
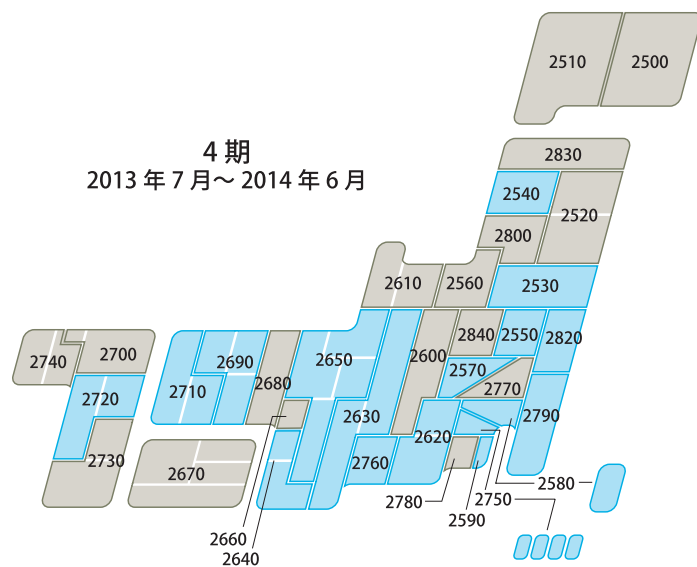
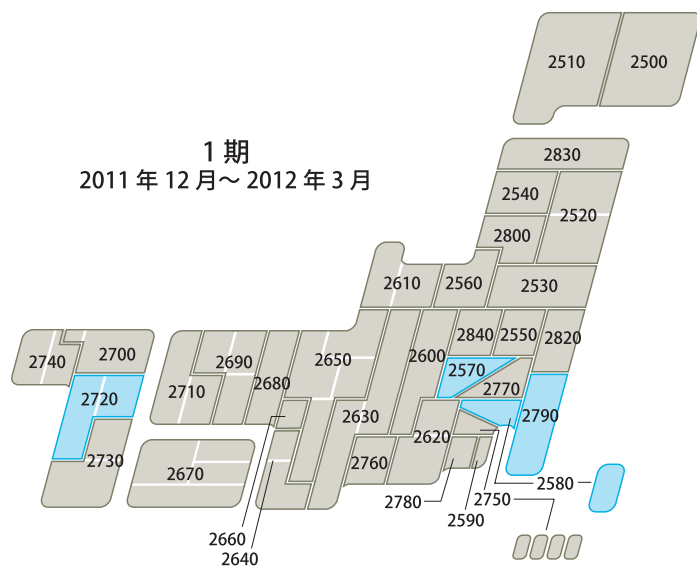
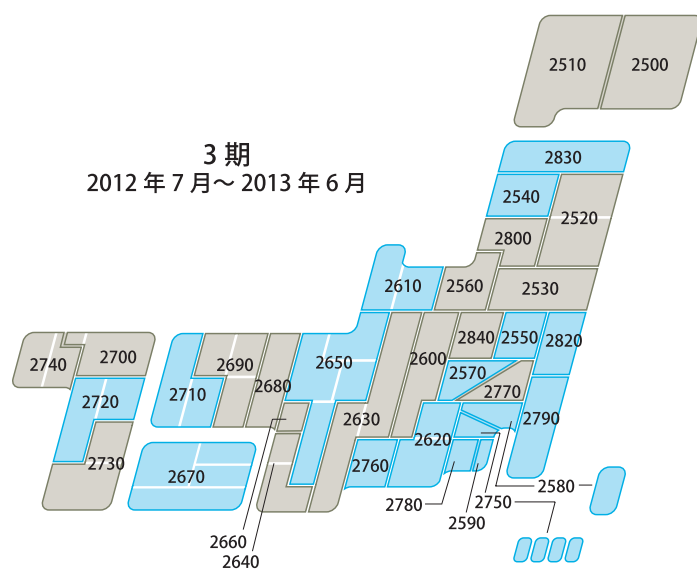
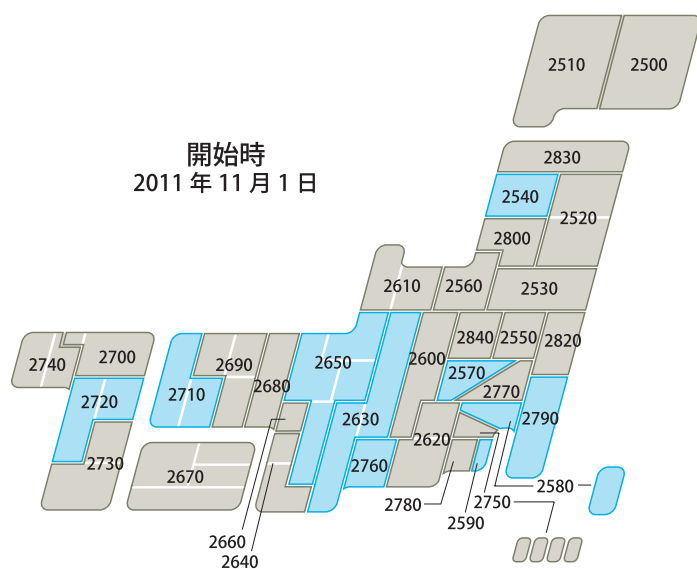
期・期間					合計
6 期	7 期	8 期	9 期	10 期	
2015 年 7 月～ 2016 年 6 月	2016 年 7 月～ 2017 年 6 月	2017 年 7 月～ 2018 年 6 月	2018 年 7 月～ 2019 年 6 月	2019 年 7 月～ 2020 年 6 月	
1,000,000	50,000				1,050,000
12,000	24,000	24,000	30,000	30,000	344,000
2,231,638	1,631,291	922,419	490,000	716,615	12,992,312
200,000	308,595	473,500	114,900		2,781,501
6,193,501	5,091,546	3,306,704	3,515,029	5,723,177	65,390,797
8,104,644	8,007,798	8,610,289	10,123,618	7,703,227	183,506,966
1,533,648	667,545	342,680	562,900	300,000	31,004,312
148,166		229,194	1,031,470		3,032,115
					3,653,271
1,400,000	1,100,000	1,000,000	1,150,000	1,200,000	23,109,625
	147,021	50,000			2,197,021
35,530,977	39,127,815	20,092,589	18,591,440	17,529,336	264,354,452
					1,300,000
350,801	1,500,000				2,163,801
4,721,131	227,500	200,000	300,000	200,000	52,496,688
770,096	1,417,874	541,038	596,200	947,000	33,756,124
		65,000	100,000		165,000
9,460					75,860
1,856,327	500,000				15,911,733
5,065,929	4,479,547	4,385,676	4,438,390	4,062,671	58,358,233
1,000,000					1,000,000
	100,000			10,000	1,060,000
4,435,822	2,741,324	3,549,347	1,945,046	1,482,370	75,492,702
1,232,330	50,000	550,000	50,000	30,000	1,912,230
654,222	48,000	859,222		186,664	7,146,090
					220,000
					1,765,192
					700,000
					125,339,917
5,357,777	466,075	120,000	665,000	120,000	7,954,013
81,080,469	67,915,125	46,123,934	42,672,523	40,041,060	980,234,055
783,481,413	851,396,538	897,520,472	940,192,995	980,234,055	

scholarship

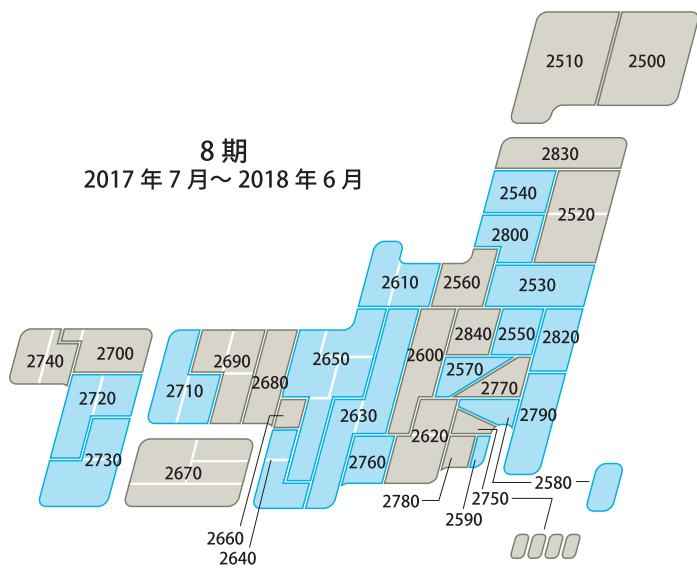
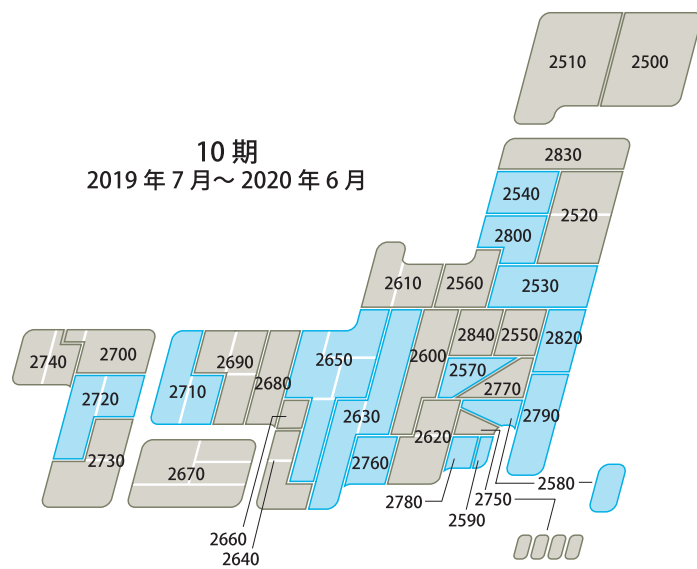
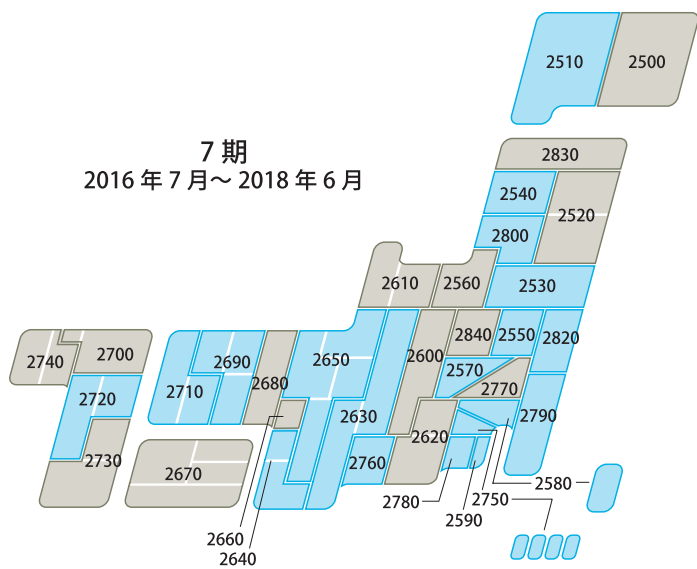
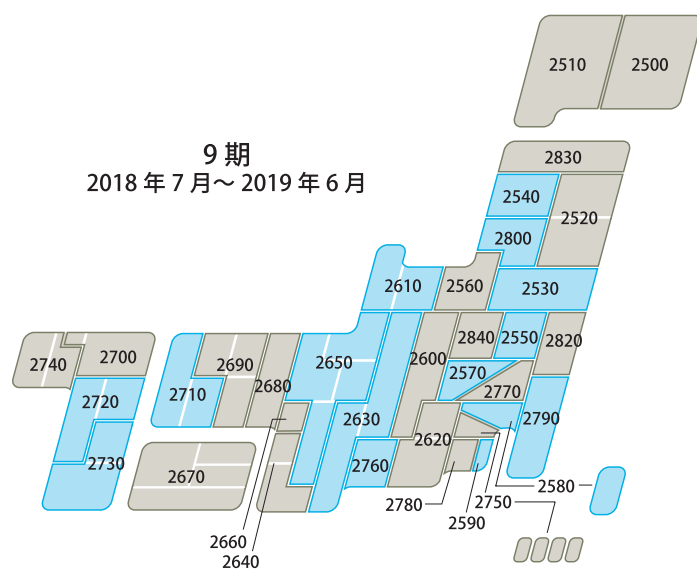
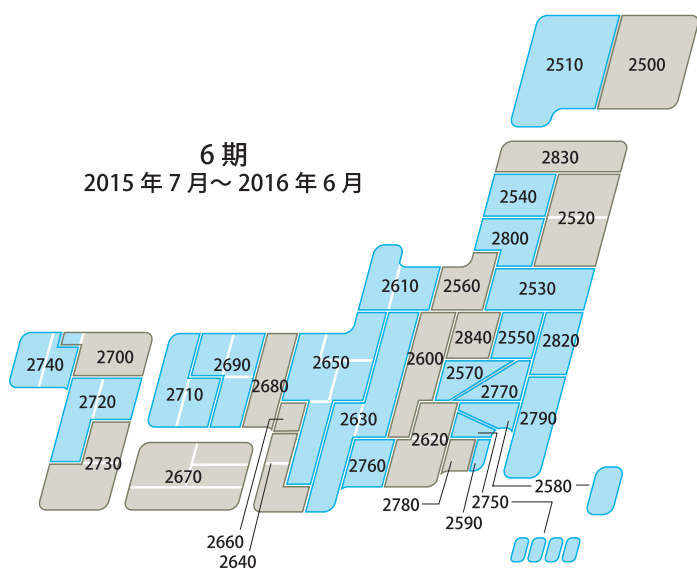
注 1) 開始時からの 5 か月間（学校年度） 注 2) 会計年度の規約改正（学校年度からロータリー年度に変更）に伴い 3 か月間



「ロータリー希望の風奨学金」への支援金協力地区（国内）



支援協力地区



* 地区の範囲は 36 ページの分布図をご覧ください。

年度別収支計算書

期	1 期 (注 2)	2 期 (注 3)	3 期	4 期	5 期
期間	2011 年 11 月 1 日～ 2012 年 3 月 31 日	2012 年 4 月 1 日～ 2012 年 6 月 30 日	2012 年 7 月 1 日～ 2013 年 6 月 30 日	2013 年 7 月 1 日～ 2014 年 6 月 30 日	2014 年 7 月 1 日～ 2015 年 6 月 30 日
収入の部					
前期繰越額	—	443,810,206	452,980,931	464,741,662	468,018,593
開始時資金	429,623,551	—	—	—	—
支援金	23,096,451	21,550,765	72,676,659	79,036,990	75,688,528
雑収入	19,596	0	71,894	74,687	74,502
収入合計	452,739,598	465,360,971	525,729,484	543,853,339	543,781,623
支出の部					
1. 奨学金					
奨学金	8,750,000	12,300,000	60,750,000	75,600,000	73,250,000
振込手数料 (注 1)	0	0	0	0	0
小計	8,750,000	12,300,000	60,750,000	75,600,000	73,250,000
2. 経費					
設備費	13,900	0	0	0	0
通信費	59,059	56,592	187,247	191,952	200,180
手数料	630	315	0	1,680	0
消耗品費	38,823	11,163	48,475	24,564	26,157
会議費	10,500	11,970	0	2,100	0
備品費	56,480	0	0	0	0
雑費	0	0	2,100	14,450	0
小計	179,392	80,040	237,822	234,746	226,337
支出合計	8,929,392	12,380,040	60,987,822	75,834,746	73,476,337
次期繰り越し額	443,810,206	452,980,931	464,741,662	468,018,593	470,305,286

注 1) 奨学金に関する振込手数料は千葉銀行が支援（第 9 期の振込手数料は、振込変更により発生した金額です）

注 2) 開始時からの 5 か月間（学校年度） 注 3) 会計年度の規約改正（学校年度からロータリー年度に変更）に伴い 3 か月間

プログラム開始から終了までの活動実績および予測

奨学生数は開始時の予測に値に実績値を加味

	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	'27	'28	'29	'30	'31	'32	'33
奨学生数	35人	80人	143人	161人	172人	176人	175人	173人	114人	107人	100人	100人	100人	81人	62人	49人	34人	32人	30人	28人	19人	10人	5人
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測
奨学金	支給した奨学金										持続可能な残高						今後支援金を 募らなければならない範囲						
	640,550,000 円										338,516,400 円						104,283,600 円						

* 2020 年 7 月 15 日時点での予測



単位：円

6 期	7 期	8 期	9 期	10 期
2015 年 7 月 1 日～ 2016 年 6 月 30 日	2016 年 7 月 1 日～ 2017 年 6 月 30 日	2017 年 7 月 1 日～ 2018 年 6 月 30 日	2018 年 7 月 1 日～ 2019 年 6 月 30 日	2019 年 7 月 1 日～ 2020 年 6 月 30 日
470,305,286	469,341,365	458,485,328	423,206,442	385,761,457
—	—	—	—	—
81,808,469	67,915,125	46,123,934	42,672,523	40,041,060
36,345	95,932	95,203	217,665	25,972
552,150,100	537,352,422	504,704,465	466,096,630	425,828,489
82,600,000	78,650,000	81,350,000	80,200,000	87,100,000
0	0	0	1,728	0
82,600,000	78,650,000	81,350,000	80,201,728	87,100,000
0	0	0	0	0
187,438	177,065	148,023	133,445	117,767
0	864	0	0	0
21,297	39,165	0	0	94,322
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
208,735	217,094	148,023	133,455	212,089
82,808,735	78,867,094	81,498,023	80,335,173	87,312,089
469,341,365	458,485,328	423,206,442	385,761,457	338,516,400

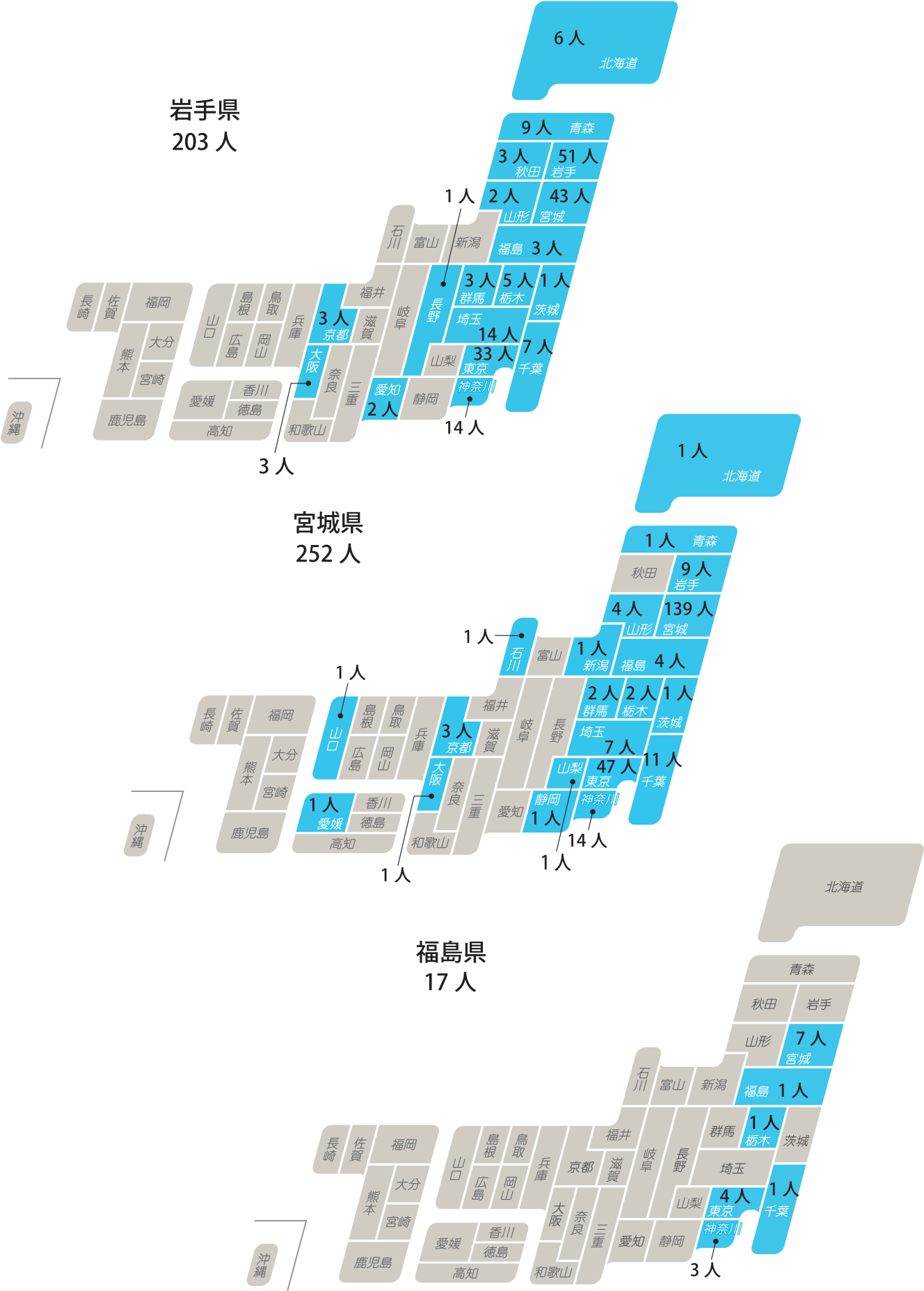
給付奨学生の状況

単位：人

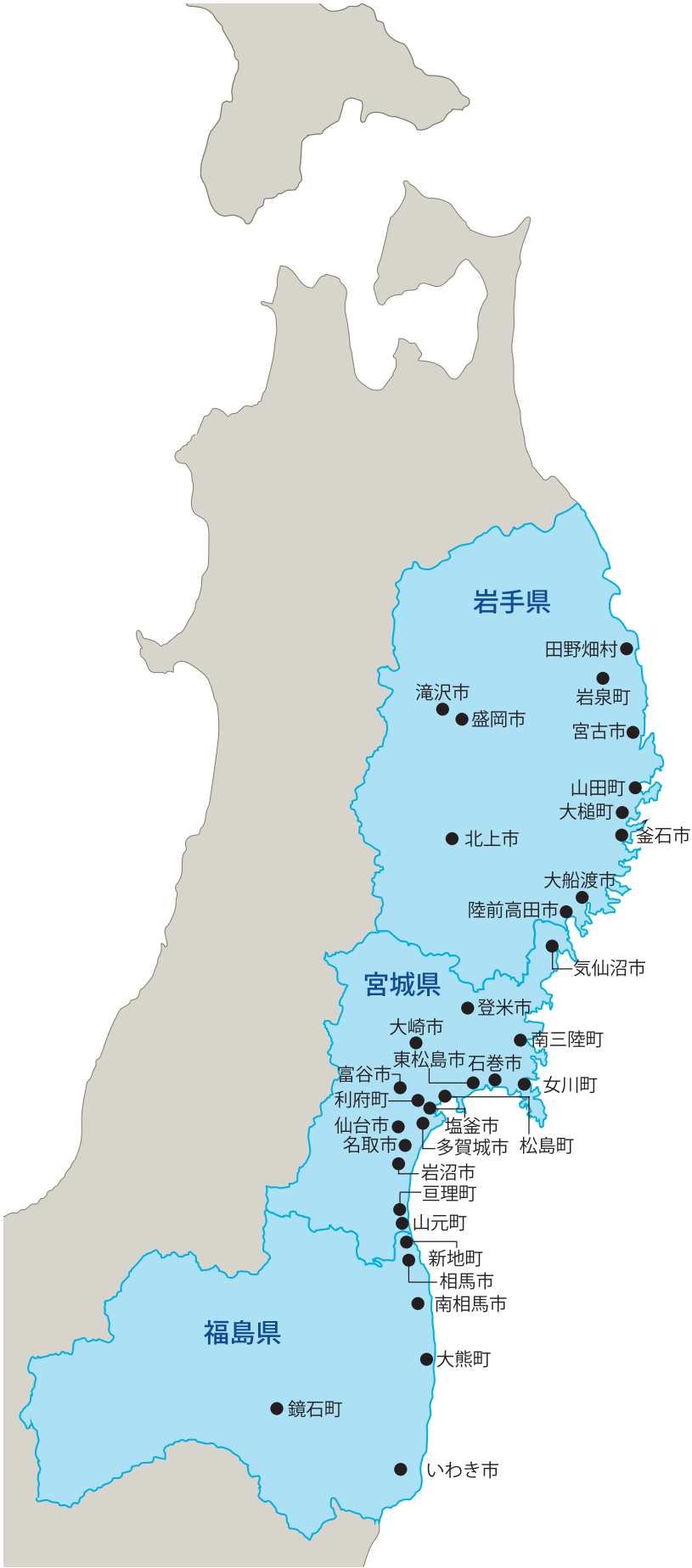
期	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	9 期	10 期
前期からの継続者	0	32	81	122	126	110	128	133	128	134
新規給付者	36	49	61	39	45	39	55	39	50	55
復学または進級確認者	0	0	0	0	2	27	2	1	0	5
期内支給者総数	36	81	144	161	173	176	185	173	178	194
休学による停止者	0	0	3	1	2	2	0	1	1	0
退学による停止者	0	0	2	2	5	1	0	2	2	10
給付期間終了者	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
進級非確認者	0	0	0	0	29	8	7	8	12	12
卒業者	4	0	17	32	27	37	43	35	29	34
次期への継続者	32	81	122	126	110	128	133	128	134	147
開始からの奨学生総数	36	85	146	185	230	269	324	363	413	468

出身県別に見る奨学生の進学先

2020 年 10 月 30 日現在



県・市町村別奨学生の数



県・市町村名	人数	男性	女性	卒業・終了	停止・休学・退学	支給中
岩泉町	2	2		1	1	
大槌町	22	8	14	15	4	3
大船渡市	18	9	9	12	2	4
釜石市	28	12	16	14	6	8
北上市	2	1	1	2		
滝沢市	1	1				1
田野畑村	7	3	4	6		1
宮古市	23	16	7	16	2	5
盛岡市	1		1	1		
山田町	24	9	15	16	2	6
陸前高田市	75	39	36	35	7	33
岩手県	203	100	103	118	24	61
石巻市	79	39	40	41	12	26
岩沼市	7	2	5	4		3
大崎市	1	1		1		
女川町	19	8	11	9	1	9
富谷市	1		1	1		
気仙沼市	47	17	30	26	5	16
塩釜市	2	1	1	1		1
仙台市	30	14	16	15	1	14
多賀城市	2		2	2		
登米市	2		2	2		
名取市	8	5	3	6		2
東松島市	19	7	12	12	1	6
松島町	1		1	1		
南三陸町	23	13	10	14	2	7
利府町	2		2			2
山元町	5	3	2	3	1	1
亘理町	4	3	1	2		2
宮城県	252	113	139	140	23	89
いわき市	1		1		1	
鏡石町	1		1	1		
新地町	1		1	1		
大熊町	1		1			1
相馬市	5	4	1	3	1	2
南相馬市	8	4	4	4		3
福島県	17	8	9	9	2	6

2020 年 10 月 30 日現在

(前略) ロータリー希望の風奨学金の給付をいただき、息子二人が大変お世話になりました。一言御礼を申し上げたく、筆をとりました。

私の長男は平成 25 年 3 月まで給付をいただき、専門学校を卒業することができました。その後、自分の夢を追いながらのアルバイト生活や派遣社員を経て、東京の広告関係の会社に正社員として就職しました。

次男は平成 27 年 3 月までの給付をいただきました。その間、一年間の海外留学も経験させていただき、27 年 9 月に大学を卒業いたしました。その後、半年間のアルバイト生活を経て、愛知県の自動車関連の会社に就職しました。

震災時は大きな不安や動揺を抱えた息子二人が無事社会人になることができたのも、ロータリーの皆さま方をはじめ、奨学金にご寄付くださった方々のおかげと存じます。もっと早い時期に御礼を申し上げるべきところでしたが、二人が就職し、安堵できた今春を機にごあいさつすることといたしました。

(中略)

今後は、皆さまからいただいたご厚意を忘れることなく、仕事に精進し、社会に貢献していくよう、声をかけて見守っていきたいと考えております。最後になりましたが、皆さま方のご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げます (大学生 2 人の母親)

この度、おげさまをもちまして、震災発生当時中学 3 年だった娘も無事に短期大学を卒業することができました。震災当時、父親が行方不明となり、先の見えない状況でしたが、皆さまからのご厚意によりまして、不自由なく勉学に励むことができました。本当にありがとうございました。

この春からは短大で習得した資格を生かし、仙台市内の保育所に就職し、社会人としての生活をスタートいたしました。これから、皆さまからいただいた心遣いを忘れず、将来少しでも何らかの形で役に立てるような人間になってほしいと思っております。

2 年間、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

(短大生の女性の母親)

(前略) 日々、就職活動と学校を両立し頑張っているところです。ロータリー希望の風さんからの奨学金はありがたく受け取らせていただいております。これからも大切に使用させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(大学 4 年の男性)

皆さまの奨学金を、ありがたういただいております。去年は兄が大学 2 年、妹が高校 3 年の受験生でありました。本人(妹)の希望もあり、受験し、見事に合格することができました。大学生二人と言えば経済的にも本当に大変です。この度のご厚意を無駄にしないよう、私たち家族一同前に進んでいこうと思います。本当にありがとうございます。

(大学生 2 人の父親)

(前略) 今年度は第 3 学年に進級し、大学のキャンパスや住居の移動に伴い、新たな気持ちで新生活や勉学に取り組んで参ります。自分の夢に一歩でも近づけるよう、これからも実り多き大学生活と新たな挑戦を続けていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(大学 4 年の男性)

Message 2016

①はい。現在就職活動中です。自分なりに考え、業界も絞って進めています。果たして本当にその道でよいのか悩んでいる部分もあります。そういった面で相談にのっていただけると、より良い就職活動につながるのではないかと思います。②はい。今まで、ご支援をいただいている分の恩返しに、少しでもなればよいと考えています。輪が広がることによって、僕たちの下の代の可能性も広がっていけばよいなとも考えています。

(大学4年生の男性)

①私はロータリーさんのおかげで大学生活を送ることができとても感謝しています。私は大学3年生になり、これから就活が始まるので、ぜひいろいろな相談をしたいです。ぜひロータリークラブに紹介お願いします。②東日本大震災から6年が経過し私は大学3年生になりました。私の東日本大震災から今までの生活や、今何をやっているかなど、ぜひ伝えたいです。

(大学3年生の男性)

①はい。就職活動も視野に入れないといけない時期になりました。美術大学という特殊な環境でしたが、社会人の方々とお話する機会があればぜひお願いしたいと思います。②はい。都合がつく限り出席したいと思います。

(大学3年生の男性)

①はい。留学や就職に関して、社会人の方々と交流することで悩みを解決するかもしれないから。②はい。自分が奨学金に感謝していることを伝えたいから。

(大学3年生の男性)

①はい。3年生になって就職について考えなければいけない年になったので、社会の先輩方にお会いしてお話を聞きたい。②はい。いつも多大なご支援をいただいているので、ロータリー会員の方々に感謝の気持ちを伝えたい。

(大学3年生の女性)

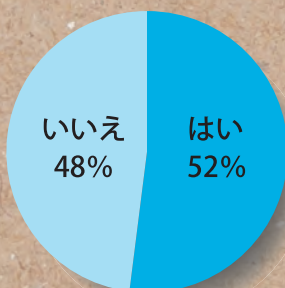
①はい。在学中にいろいろな経験をしたと考えているので、そのような場を提供していただけるのであればうれしいです。②はい。ロータリーの方々の温かいご支援で今学校生活を送れているので、直接感謝の気持ちをお伝えできるのであれば、うれしいです。

(大学4年生の女子)

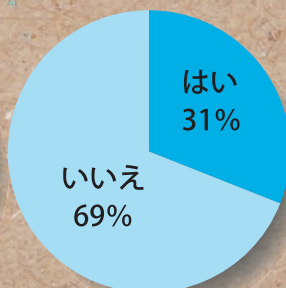
①はい。卒業後のことでも悩んでいるから。②はい。震災でどのようなことが起こったのか、その後どんな暮らしをしてきたのか、震災関連のプロジェクトで海外に行くなどして、そこで何を見てきたかなど伝えられると思ったから。

(大学生3年生の女性)

「①奨学生の皆さんを近くのロータリークラブに紹介してもいいか」「②支援の輪を広げるためクラブ例会や地区の集まりに出席し生の声を届けていただけないか」の2点についてアンケートを実施しました。



クラブへの紹介



クラブ例会への出席

Message 2017

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会 役員・委員名簿

現役職	氏 名	地 区		所属クラブ	委員就任	1 期	2 期
会長	地葉 新司	第 2540 地区	2010-11 年度 G	潟上	2011.11	委員	委員
会長代行	宇佐見 透	第 2790 地区	2014-15 年度 G	千葉幕張	2015.07		
副会長	岩尾 碩	第 2580 地区	日台ロータリー 親善会議事務総長	東京青梅	2011.11	委員	委員
副会長	栗田 幸雄	第 2650 地区	2010-11 年度 G	福井北	2011.11	委員	委員
副会長	前田 茂	第 2710 地区	2010-11 年度 G	三次	2011.11	委員	委員
副会長	木下 光一	第 2720 地区	2010-11 年度 G	大分城西	2011.11	委員	委員
副会長	松坂 順一	第 2580 地区	2018-19 年度 G	東京葛飾	2014.07	委員	委員
副会長	橋本 恵治	第 2580 地区	2013-14 年度 A G	東京福生	2014.07		
副会長	北河原公敬	第 2650 地区	2014-15 年度 G	奈良大宮	2015.07		
委員	矢島 淳一	第 2570 地区	2014-15 年度 A G	本庄	2015.07		
副会長	神野 重行	第 2760 地区	2017-18 年度 G	名古屋名駅	2017.04		
委員	近藤 雄亮	第 2760 地区	2014-15 年度 G	名古屋瑞穂	2014.07		
委員	藤本 誠一	第 2580 地区		東京東久留米	2014.07		
委員	今井 忠	第 2580 地区		東京臨海	2014.07		
委員(庶務)	中川 雅雄	第 2580 地区	2020-21 年度 A G	東京浅草	2014.07		
委員	田原 績	第 2580 地区		東京浅草	2014.07		
委員	小澤 秀瑛	第 2580 地区	2006-07 年度 G	東京青梅	2015.07		
委員	飯村 雅洋	第 2580 地区	2019-20 年度 A G	東京武蔵中央	2015.07		
委員	鈴木富士雄	第 2820 地区		つくば学園	2015.07		
委員	山下 清俊	第 2790 地区		市川東	2015.07		
委員	藤居 彰一	第 2820 地区	2014-15 年度 G	日立	2015.10		
委員	宮下 正弘	第 2540 地区	2015-16 年度 G	秋田	2016.07		
委員	百目鬼 健	第 2580 地区		東京浅草	2017.07		
委員	野口 健吉	第 2570 地区		東松山むさし	2018.07		
委員(会計)	西川 和人	第 2570 地区		志木	2019.07		
委員	池永 憲明	第 2580 地区		東京城東	2019.07		
委員	宮本 和夫	第 2790 地区		千葉幕張	2019.07		
委員	笠倉 勉	第 2820 地区		しもだて紫水	2020.07		
監事	川野 正久	第 2590 地区	2010-11 年度 G	川崎北	2011.11	委員	委員
監事	後藤 定毅	第 2780 地区	2010-11 年度 G	大和中	2014.07		
顧問	上野 操	第 2580 地区	2010-11 年度 G	東京江戸川	2011.11	委員長	委員長
顧問	桑月 心	第 2630 地区	2010-11 年度 G	高山	2011.11	委員	委員
顧問	田嶋 好博	第 2760 地区	2010-11 年度 G	名古屋北	2011.11	委員	委員
顧問	坂本 元彦	第 2570 地区	2014-15 年度 G	富士見	2015.07		
特別顧問	織田 悦子				2014.07		

	織田 吉郎	第 2790 地区	2010-11 年度 G	銚子	2011.11	副委員長	副委員長
	西川武重郎	第 2570 地区	2010-11 年度 G	志木	2011.11	監査	監査
	大木 勲	第 2820 地区	2011-12 年度 G	結城	2011.11	委員	委員
	大澤 衛	第 2570 地区	2014-15 年度 G	朝霞キャロット	2015.07		

G：ガバナー AG：ガバナー補佐



3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	9 期	10 期	11 期
委員	委員	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	会長
			委員	副委員長	委員長代行	委員長代行	委員長代行	会長代行
委員	委員	委員	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副会長
委員	委員	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副会長
委員	委員	委員長代行	委員長代行	委員長代行	副委員長	副委員長	副委員長	副会長
委員	委員	委員	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副会長
委員	委員	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副会長
		委員	委員	委員	副委員長	副委員長	副委員長	副会長
			副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副会長
			委員	委員	委員	副委員長	委員	委員
				委員	副委員長	副委員長	副委員長	副会長
		副委員長	副委員長	副委員長	委員	委員	委員	委員
		委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員
		委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員
		委員	委員	委員	委員（庶務）	委員（庶務）	委員（庶務）	委員（庶務）
		委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員
			委員	委員	委員	委員	委員	委員
			委員	委員	委員	委員	委員	委員
			委員	委員	委員	委員	委員	委員
			委員	委員	委員	委員	委員	委員
			委員	委員	委員	委員	委員	委員
			委員	委員	委員	委員	委員	委員
				委員	委員	委員	委員	委員
					委員	委員	委員	委員
						委員	委員	委員
							委員	委員（会計）
							委員	委員
							委員	委員
								委員
委員	委員	委員（会計）	委員（会計）	委員（会計）	監事	監事	監事	監事
		委員	委員	監事	監事	監事	監事	監事
委員長	委員長	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問
委員	委員	監事	監事	監事	顧問	顧問	顧問	顧問
委員	委員	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問
			副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	顧問	顧問
	特別顧問	特別顧問	特別顧問	特別顧問	特別顧問	特別顧問	特別顧問	特別顧問

副委員長	副委員長	(2014 年 6 月逝去)						
監査	監査	顧問	(2014 年 9 月逝去)					
委員	委員	委員	(2015 年 7 月辞任)					
			副委員長	副委員長	副委員長	(2018 年 7 月辞任)		

委員会構成

委員数 50 名以内
 会長 1 名
 副会長 12 名以内

会長代行
 会計担当
 総務担当
 監事

副会長の中から 1 名
 委員の中から 1 名
 委員の中から 1 名
 2 名

(2020 年の規約改定で、委員長・副委員長・委員長代行の名称を、会長・副会長・会長代行に変更)

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会 規約

第1条（名 称）

本会は、ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会と称する。

第2条（所 在）

本会の事務所は東京都中央区京橋 2-11-8 全医協連会館 1 階 国際ロータリー第 2580 地区ガバナー事務所内におく。

第3条（目 的）

本会は、東日本大震災で父母その他の保護者を失ったり、東京電力福島第 1 原子力発電所 事故で被害を受けている青少年に、奨学金の支給等の教育環境支援活動を行なうロータリー会員、クラブ、地区、その他協力団体と協力して、被災青少年についての情報の収集、提供、連絡、調整などを通して、その支援活動を行なうことを目的とする。

2. 前項の奨学金の支給等の教育環境支援活動を総称して「ロータリー希望の風奨学金」と呼ぶ。

第4条（委 員）

前条の目的に賛同するロータリークラブ会員の有志

第5条（会 費）

会費は無料とする。

第6条（役員等）

本委員会の委員は 50 名以内とし、役員として、会長 1 名、副会長 12 名以内、監事 2 名を委員総会で互選する。なお、副会長の中から会長代行、会計担当を各 1 名選任する。

第7条（会長、副会長、監事、顧問）

会長は本会を代表し、本会を総括する。副会長は会長を補佐し、監事は経理を監査する。

2. 会長に事故あるときは、会長代行・副会長がこれに代わる。

3. 会長は委員会の同意のもとに、役員経験者の中から若干名の顧問を委嘱することができる。

第8条（任 期）

役員の任期は 3 年とする。ただし、再任を妨げない。

第9条（報 酬）

委員及び役員並びに顧問は無償とし、日当、交通費等も支給しない。

第10条（定時委員総会）

定時委員総会は毎年 1 回 7 月中に開催し、その会議の定足数は委員現在数の過半数の出席を要し、その議事の議決数は出席した委員の過半数で決し、可否同

数の時は議長の決するところによる。

2. 定時委員総会は会長が招集し、議長は会長が行う。

3. 本会の議事については議事録を作成し、議事録には議長および会議において選任された議事録署名人 2 名が記名押印する。

第11条（臨時委員総会・役員会）

臨時委員総会および役員会は随時に開催することができ、いずれの会議も会長が招集し、議事を行い、会議の定足数と議事の議決数ならびに議事録作成は前条各項の規定に準ずる。

第12条（会計年度）

本会の会計年度は毎年 7 月 1 日から翌年 6 月 30 日までとする。

第13条（本会の終了）

本会は以下の場合に終了する。

(1) 本会の目的が達成されたとき

(2) 現存委員の 2 分の 1 以上が出席した委員総会で、出席委員の 3 分の 2 以上の賛成で解散の議決がなされたとき。

第14条（改 正）

この規約は、現存委員の 2 分の 1 以上が出席した委員総会で、出席委員の過半数の賛成で改定することが出来る。

〈付 則〉

1. 本会規約は 2011 年 10 月 31 日制定し、同年同月同日から施行する。

2. 本会規約は 2012 年 6 月 14 日一部改正し、同年同月同日から施行する。

3. 本会規約は 2014 年 7 月 30 日一部改正し、同年同月同日から施行する。

4. 本会規約は 2015 年 7 月 30 日一部改正し、同年同月同日から施行する。

5. 本会規約は 2016 年 7 月 28 日一部改正し、同年同月同日から施行する。

6. 本会規約は 2020 年 8 月 9 日一部改正し、同年同月同日から施行する。



(前略) 娘〇〇へご支援、本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございます。娘が仙台から〇〇へ行って一年、この一年の間にどれだけの経験をして、たくさんの人たちに出会い、助けてもらってきたのか想像もできませんが、たまに顔を見せてくれる娘は、たくましく、優しく、育ってくれています。

親元を離れて生活することは娘のためにもなるとは思っていましたが、正直皆々さまのご支援がなかったのなら、かなわなかったかもしれません。今は、精いっぱい勉強と、サークルと、学生生活を満喫してほしいと願っています。感謝の気持ちを忘れずに。

末筆になりますが、ロータリー希望の風に携わる皆々さまのご健康とお幸せをお祈り申し上げます。
(奨学生の母親)



大変お世話になりました〇〇の母です。専門学校での3年間、多大なるご支援をいただきまして本当にありがとうございました。おかげさまで国家試験に合格し、念願の柔道整復師の資格を習得することができました。

3年間、無遅刻、無欠席だったので皆勤賞をいただき、卒業することができました。そして今、横浜の接骨院に就職して、一生懸命頑張っています。

それもこれも、多大なるご支援をいただいたおかげです。本当にありがとうございました。亡くなった主人もきっと感謝していることと思います。このご恩を忘れずにこれからも頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

(卒業生の母親)

大学に進学し、春から2年生になりました。(中略)

授業、サークル、バイトで休まない生活を送っています。こんなに充実した生活を、不自由なく過ごせるのは、皆々さまのご支援をいただいているからです。いつも本当にありがとうございます。

2年生も精いっぱいできることに取り組み、さらに充実した日が過ごせるようがんばります。

(大学2年生の女子)

Message 2018

多くの人々といろいろなことを話せる機会がなかなかありません。ぜひ、そういった場を設けてもらいたいです。また、ロータリアンの方々が支援してくださるおかげで、今の自分があると思うので、そのことについて感謝もお伝えしたいし、今後のことや将来の夢なども語ってみたいと思います。支援を受けている自分たちの生の声を伝えることは、支援してくださっている人々にとっても役に立つことだと思いますし、支援の輪を広げられるなら、ぜひ出席したいです。
(大学1年の男性)

震災後、9年が経過し、支援金も目減りしているのでは、と推察します。しかし、東日本大震災によって生じた困難な環境は変わりません。私はアルバイトをすることができますが、中学生など働けない人たちには、より困難な状況だと思います。ロータリークラブの支援は、今の小中学生にとって必要不可欠。ロータリアンとの交流と支援の輪を広げ、奨学金運営の力になりたいと思っています。(大学4年の男性)

ロータリー希望の風奨学金をいただくに当たり、東日本大震災連絡協議会の皆さま、ロータリアンの皆さまには大変感謝しております。
(大学2年の女性)

ご支援ありがとうございます。おかげさまで生活に困ることなく、毎日を有意義に過ごしております。これからも感謝の気持ちを忘れず、大学生活を送りたいと思います。
(大学2年の女性)

私は無事3年生に進級することができました。進級し、さらには不自由なく学校に在籍できるのは、ロータリー希望の風奨学金のおかげです。支援してくださっている方々にお礼の言葉を述べたいと思っています。
(大学3年の男性)

ロータリアンの方々と交流する機会はとても貴重であり、自分の勉強になるので、ぜひお話をさせていただきたいと思っています。また、支援してくださるロータリアンとお話させていただける機会もなかなかないので、直接お話をできたらと思っています。今年の新年会に出席したとき、たくさん声をかけていただき、とても貴重な体験となりました。機会があれば、また参加させていただきたいと思っています。東日本大震災の体験談など、自分が話せる範囲で伝えられたら、と思っています。
(大学2年の女性)

「①ロータリークラブに紹介してもいいか」
「②支援の輪を広げるためクラブ例会や地区の集まりに出席し生の声を届けていただけないか」の2点についてアンケートを実施しました。

Message 2020



あとがき

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会 会長 地葉 新司

国際ロータリー第 2540 地区（秋田県） 2010-11 年度ガバナー
（潟上ロータリークラブ）

小史をまとめるに当たり、「ロータリー希望の風奨学金」を主宰するロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会の年間報告や活動紹介の投稿記事の掲載をしていただいたロータリーの友編集部に厚く御礼申し上げます。記事を読まれた多くのロータリアン、各地のクラブから新たな、また継続的なご支援をいただくことができました。

「ロータリー希望の風奨学金」は、生みの親とも言える第 2790 地区（千葉県）2010-11 年度ガバナーの織田吉郎氏なくしては語れないでありましょう。資料を読み返し、あらためて実感しました。第 2790 地区は被災地であり、当事者でもあるガバナーとして地区内の対応を余儀なくされていたにもかかわらず、大きな気持ちでロータリーとしての活動を目指しておられました。当該年度のガバナー会で立ち上げた東日本大震災委員会委員長として 7 か月、2011 年 10 月にロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会を発足するまでのご苦勞、そして副委員長として努めた 2 年半のご苦勞は、壮絶なものであったように思います。織田氏は次期委員長就任を目前にして 2014 年 6 月ご逝去されました。ご心中察するに余りあるものがあります。

東日本大震災が起きてから 10 年が経過しました。私たちは皆さまがお寄せくださった義援金をロータリーらしい支援に使おうと、① 公正であること、② 建設的であること、③ 温かく心を寄り添わせることができること、という 3 つのチェックポイントを設け、被災遺児への教育環境支援を打ち出しました。

当初、10 地区の共同プログラムとして発足し、12 地区、そして 15 地区と拡大、その後は支援地区の枠をは

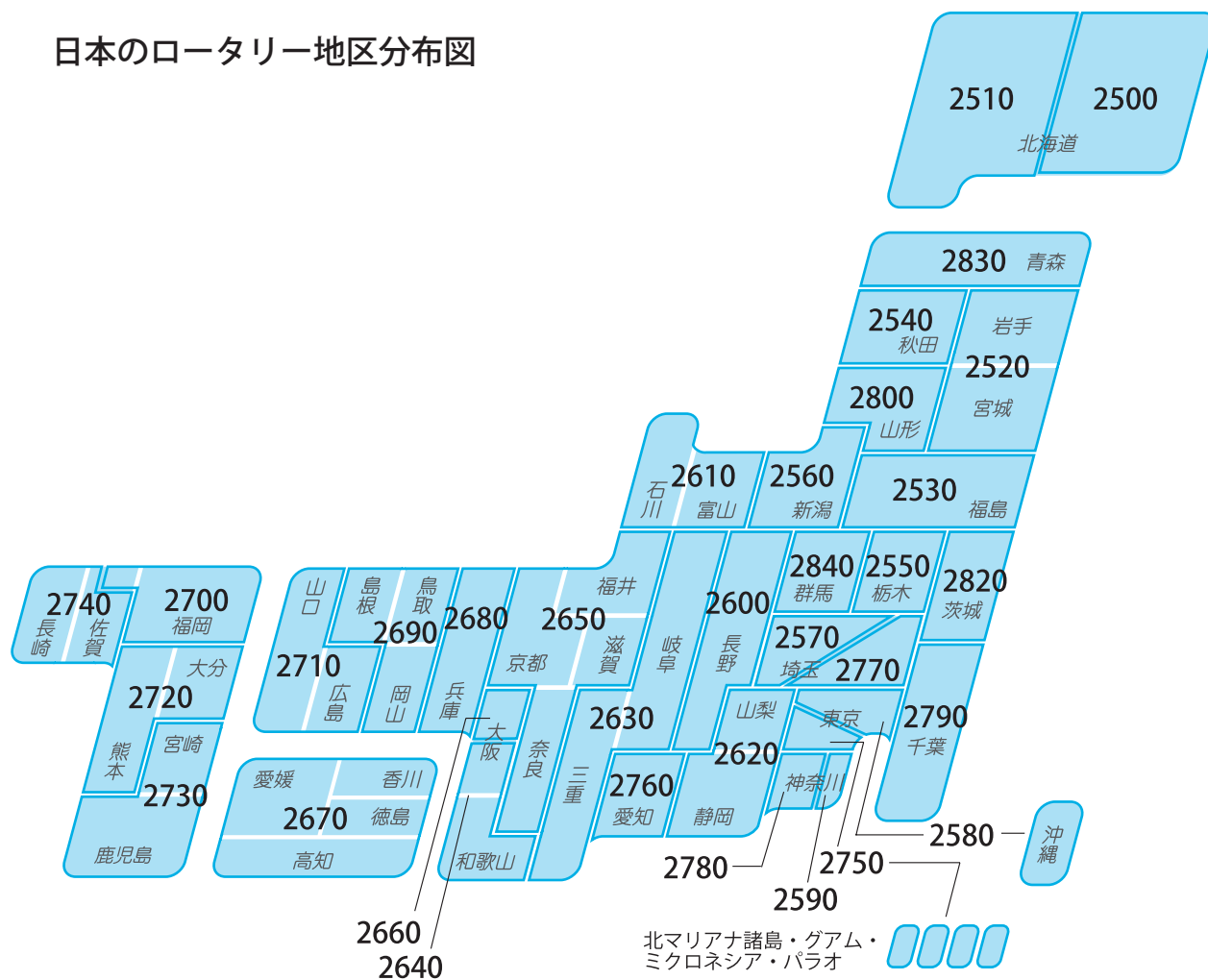
ずし、個人でも、またはクラブ単位でも地区単位でも主体的に参加できるプログラムとして、支援金の管理を含めて全面的なサポートをする体制を整え、推進しております。

遺児となった奨学生や親御さんから感謝の言葉をいただいていたしましたが、震災後 5～6 年が経ったころ、事務的な手続きに追われている中、毎年掲載されている『ロータリーの友』の記事を読まれたロータリアンの方から「ロータリーの活動の中で、最も身近で、最も目に見える活動であり、支援したい」とのお言葉をいただき、大きな励みとなりました。また、多くのロータリアン、個人、企業等から支援をいただくようになりました。

終わりに、ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会初代委員長・第 2580 地区（東京都・沖縄県）2010-11 年度ガバナーの上野操氏、ロータリー希望の風奨学金の発足に尽力された故・織田吉郎氏ならびに発足初期の推進に邁進された第 2570 地区（埼玉県北東）2010-11 年度ガバナーの故・西川武重郎氏に敬意を表するとともに、支援金・奨学金の管理ならびに手続きに無償でご協力をいただいた 2010-11 年度ガバナー夫人の織田悦子様（第 2790 地区 千葉県）、桑月絢子様（第 2630 地区 岐阜県・三重県）、川野則子様（第 2590 地区 神奈川県）、前田司保美様（第 2710 地区 広島県・山口県）に深く感謝いたします。

最後に、「ロータリー希望の風奨学金」にご支援をいただいた方々に感謝とともに、さらなるご理解とご支援をお願いさせていただき、結びといたします。

日本のロータリー地区分布図



被災者とともに —
私たちロータリアンは東日本大震災のことを決して忘れません

希望の風—被災者とともに

発行日 2021年3月11日

発行人 地葉 新司

編集人 nf528 二神 典子

印刷 株式会社 一心社印刷所
非売品

ロータリー希望の風奨学金

連絡先

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会
〒104-0031

東京都中央区京橋 2-11-8 全医協連会館 1 階
国際ロータリー第 2580 地区ガバナー事務所内
tel. 03-5250-2050 fax. 03-4586-6393

Eメール mail@kibounokaze.com

Web www.kibounokaze.com

支援口座（口座名義）

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会
千葉銀行 銚子支店 普通 3549340

